



対立の文化から共生の文化へ 活動紹介



像：イングリッド・ロレマ制作
台座：富山県高岡市制作

像・台座：富山県高岡市制作

像・台座：イングリッド・ロレマ制作（3号像）

ベルタ・フォン・ズットナー

第一次世界大戦前夜「武器を捨てよ」「空の野蛮化」を発表した平和活動家。1905年女性初ノーベル平和賞受賞。
カーネギー財団発注によりオランダ芸術家イングリッド・ロレマ氏制作。富山県高岡市に制作依頼。
八雲立つ出雲から全国 世界へ

一般財団法人

人間自然科学研究所

目次

人間自然科学研究所 活動紹介 No3

南京大虐殺記念館名誉教授来日 朱成山様講演	1
2002年7月 人民中国	3
2016年12月 南京大虐殺記念館元館長 朱成山様 東京・神戸講演	36
安重根義士殉国 104 周期追悼及び国際交流会晩餐会の挨拶（朝鮮半島と日本列島の使命より）	63
2015年5月 日本大使館前 慰安婦像とズットナー像を並べて撮影	65
2015年7月24日 韓国ソウル市 光復70周年記念作業市民委員会	77
シンポジウム・イベント写真資料／書籍紹介	84
悠久の河パンフレット	86
ゆう科学通信	88

南京大虐殺記念館名誉教授来日 朱成山様講演

・12月6日(火) 広島

広島市留学生会館(広島市南区西荒神町)

開場 17:00

開始 18:00～

資料代 1000円

留学生・技能実習留学生・18歳未満は無料

・12月7日(水) 岡山

市内 14時から 時から

参加希望者は 086-201-8844

・12月8日(木) 京都 日(木) 京都 日(木) 京都

ひと・まち交流館 京都(京都市下区梅湊町)

開場 13:30

開始 14:00～

資料代 1000円(学生等応相談)

連絡先 070-6452-6120

・12月10日(土) 大阪

PLP会館 5階大集会室(大阪市北区天神橋)

開場 13:00

開始 13:30～

参加費:800円 学生:500円

連絡先 080-3822-0404

・12月11日(日) 神戸

神戸学生青年センター(神戸市灘区山田町3丁目)

開場 18:00 開始 18:30～ 資料代 1000円 学生 500円

連絡先 連絡先 090-9050-8227

・12月12日(月) 名古屋

イーブルなごや・ホール(最寄駅:名城線東別院)

開場 18:00

開会 18:30～20:45

連絡先 連絡先 090-6087-8656

資料代 1000円 年収 200万円以内の方は無料

連絡先 090-6087-8656

・12月13日(火) 金沢

石川県教育会館(金沢市香林坊)

開場 17:30

開始 18:00～20:30

連絡先 090-9762-3340

資料代 前売り 1000円 当日 1200円・学生無料

・12月15日(木) 東京

韓国YMCA 9階(JR水道橋下車(JR水道橋下車 5分))

開場 18:00

開始 18:30～20:30

資料代 1000円

祖国復帰から5年 香港はいま

人民中国

北京で出版する唯一の日本語総合月刊誌

People's China

2002 7



劉備は北京っ子
世界遺産 雲岡石窟を見る
中日の懸け橋となった日本女性



放談さっくばらん

黙々と友好の畑を耕す

中日民間文化交流センター主任 張碧清



今年は中日国交正常化三十周年である。三月初めごろ、私は招かれて、三十周年記念のあるイベントに参加するため日本へ行った。あちこち見学し、そこで見聞したことや感じたことを述べてみたい。

友好の井戸は枯れず

一九五〇年代の中ごろから六〇年代の中ごろまで、私は中国人民外交学会で働いていた。当時、外交学会は日本の政治家を接待する唯一の窓口であった。国交を正常化するための準公的な会談の一部に参加したことが

あるので、国交正常化を勝ち得るのは容易なことではなかったことを私はよく知っている。

三十数年前、松村謙三や高崎達之助ら日本の見識ある人たちは、七十歳を超す高齢にもかかわらず、千里をものともせず、はるばる海を越え、何回も中国にやってきて、夜を日に継いで会談に臨んだ。そのおかげで一九七二年に、やっと成果を見ることができた。今年の国交正常化三十周年に際し、往時をふりかえり、中日友好の井戸を掘った先輩たちに心からの感謝の意を表したい。

これらの見識ある先輩たちは

あいついで世を去った。今日の中日関係にはたびたび波乱や曲折が現れる。中日友好の事業には後継者がいないのではないかと皆が心配している。しかし今回の訪日で、後継者がつぎつぎと出て来ているのを知り、励まされた。後継者の中には、よく知られている友好人士もいれば、世には知られていないが、黙々と中日友好の畑を耕している人々もいて、実に敬服に値する。

島根県の小松電機産業の社長で、「人間 自然 科学研究所」の所長でもある小松昭夫氏は、後者の代表的人物である。彼はずっと中日の平和友好や文化交流を促進する事業を一つずつ、地に足をつけて実践してきたのだ。

ここ数年、小松氏は積極的に近隣諸国との文化交流を進めてきた。日本人の歴史に対する認識は、アジアの人々とかなり差があることを知っているため、小松氏は将来に対して強い不安を感じている。こうした歴史認識はすべて、軍国主義と関係があると、軍国主義が捲土重来してくるのを絶対許してはならない」と大声で呼びかけている。花が一輪だけ咲いても春ではない。無数の花々が咲きそろって



記者と小松昭夫氏
(左から2番目)

てこそ存なのだ。全社員の教育のため、二〇〇一年五月、小松氏は全社の百人近い社員を率いて訪中し、南京大虐殺記念館や盧溝橋の中国人民抗日戦争記念館に行き、歴史を学んだ。彼は「前事の忘れざるは、後事の師なり」という精神に基づいて歴史を学び、現実を直視し、中日両国の子孫や世界人類の未来のために平和を守る努力をしなければならぬと言っている。企業の社員全員が歴史を学ぶため中国へ見学に来たのは、小松電機産業が初めてであるといわれる。その目的は、自社の社員を教育するだけでなく、さらに多くの人々が後からやって来るようになればいい、と小松氏は期待している。

小松氏は山東省棗荘にある台児荘大戦記念館を参観したとき、二〇〇三年が台児荘戦役の六十周年なので、盛大な記念イベントが催されることを知った。一九三八年、小松氏の故郷である島根県と隣の鳥取県の両県民によって落成された松江六三連隊がこの戦役に参加した。この戦役で中国に巨大な損失をもたらした罪を贖い、平和を祈念するため、小松氏は棗荘市と共同出資して、「台児荘平和記念碑」を建てていくことを提案した。現在、中国側は建設する場所を選定し

ているところだ。設計については棗荘市政府と小松氏が相談して決め、来年の四月には完成する予定だという。中日が共同に出資し、中国に平和記念碑が建てられるのも初めてのことである。

中日両国の間では、靖国神社問題がずっと中日友好関係をかき乱す大きな要因となっていた。それは、なかなか直らない疾病のような問題だ。それを解決するため、日本ではいろいろな提案があつたが、小松氏の提案は非常に独特である。それは島根県と鳥取県にまたがる中海のほとりに「永久平和記念碑」を建てようというものだ。

日本軍国主義の侵略する矛先は、まず朝鮮半島と中国に向けられた。朝鮮半島や中国に最も近いところに平和記念碑を建てることは、平和を望む気持ちを最もよく表す特別な意義がある。小松氏の呼びかけを島根、鳥取両県民が積極的に支持し、鳥取県当局は記念碑を建てるために米子空港近くの土地をすでに用意しているという。小松氏の案内で、私はそこを見に行った。土地は広く、日本海に面している。そこで、記念碑を建てるには理想的な場所だ。この計画が実現すれば、日本と隣国との関係を改善するのに大きく役立つ。その

効果は計り知れない。 介の中小企業の経営者が自国と隣国との平和友好事業にこれほど関心を寄せ、さっさと実際に行動を起こしているのは、実に貴重なことだ。

日本でも花開く儒家文化

孔子は中国古代の偉大な思想家であり教育者でもある。孔子によって創られた儒家文化は二千年以来、歴代の王朝に崇拝されてきた。だが、二十世紀になつてから、中国では儒家文化はジリ貧になった。だが日本では、儒家文化はずっと人気を持ち続け、礼儀の道を篤く信じている人はかなり多い。小松氏もその中の一人であり、「中庸」は彼の座右の銘である。

九八八年に出されたノーベル賞受賞者による『バリバリの道』は一人類が二十一世紀に生き残っていくには、二千年前を振り返り、孔子の知恵を吸収しなければならぬと述べている。世界的な「頭脳」たちによって孔子がかくも高く評価されたことで、小松氏は大いに励まされた。一九九九年、北京で開催された孔子の生誕二千五百年記念のシンポジウムには、十数人の学者たちが参加した。そして孔子の理念や教えが、現在のさま

さまざまな問題の解決に知恵を与え
る」と認定した。これは中国での
孔子の評価がさらに高まったこ
とを意味する。

儒教をもつと盛んにするため、
小松氏は山東省棗荘に、高さ一
メートル以上もある孔子と孟子
の銅像を注文し、今年九月に島
根県に運んで盛大な除幕式を行
う予定である。

最近、小松先生が主宰する「人
間 自然 科学研究所」は、中日
英語対訳の『論語』の豪華本を出
版し、関係方面に配った。日本政
府にも百冊贈った。この本の出
版記念会を、小松氏は東京と島
根で盛大に開催した。私は小松
氏がきつとこのチャンスを利用
して、自社の製品を宣伝するの
だろうと思った。だが、まったく
予想に反して小松氏は、商売の
ことには一言も触れなかった。
その誠実さには感動した。

中日の儒家文化を比べて見る
と、まるで花は庭で咲いたが、香
りは垣根の外へ漂っていくよう
なものだ、と私には感じられる。
古代の優秀な文化の継承は、中
国より日本のほうがうまくいっ
ていると思う。

日本経済の衰退は本当か

一九九〇年代以後、日本の経

済の衰退が十年間続いているこ
とは、各種の統計にあらわれて
いる。このため一部の経済学者
は、日本の現状を「山川草木うた
た荒涼」と言わんばかりに描い
ている。

だが去年の末、イギリスのあ
るビジネスマンが日本を視察し
た。彼は最初、日本ではきつと失
業者が街に溢れ、商店には客が
少なく、人々は憂いに満ちた表
情をしているだろうと想像して
いた。しかし日本の各地を見て
回った結果、彼は驚いてこう
言ったのだ。「日本のマーケット
の繁栄ぶりは、ロンドンを上回
ることはあっても下回ることは
ない」。そして彼は「日本経済の
衰退説は虚構ではないか」と
疑ったのである。

私は十年前、日本で暮らした
ことがあり、当時の日本のマー
ケットについてよく知っている。
十年後再びその地を訪れてみた
が、その盛況ぶりは以前とまっ
たく変わらないように感じた。
十年間も経済が低迷している
というのに、なぜマーケットは
昔と同様にあれほど繁栄してい
るだろう。それは、日本経済がも
ともと実力があるからだ。今日
の日本は依然として世界第二の
経済大国の地位にある。世界最
大の債権国であり、最大の海外

援助国でもある。およそ資金援
助の必要があれば、世界の中で
真つ先に、日本に目が向くのだ。
しかも日本は、収支が均衡し
ている国の一つである。今でも、
一人当りの国民総生産(GNP)
は、先進国の中でもかなり高い。
中国では、「瘦せて死んだ駱駝で
も馬より大きい」という。日本の
各方面の状況を総合的に見て、
私は日本の経済を悲観的には見
ていない。日本は必ず、一時的な
苦境から抜け出し、再び立ち離
陸することができると信じてい
る。

国際協力で環境保護を

ここ数年、中国政府は環境保
護に対し大量の人物、金を投入
し、かなりの成果を収めた。だ
が、日本とはまだ比べものにな
らない。今回、東京、島根、鳥取、
千葉を訪れたが、至るところに
青空と白雲があり、その明るさ
にかえって戸惑うほどだった。
島根県を視察したとき、青々
とした山の中の所々に、黄色い
木々がまるで斑点のようにある
のを偶然見つけた。そのわけを
尋ねてみたら、中国大陸から飛
んできた酸性雨のせいで抵抗力
の弱い松が枯れ、そこが黄色に
なっているのだと小松氏は説明

した。まったく恥ずかしい話だ。
中国の環境保護事業がうまく
いっていないかったため、その禍
が隣国にも及び、島根県は中国
に近いので、いち早く酸性雨の
被害を受けたのだ。

三月二十日、北京はめつたに
ないほどの砂嵐に襲われた。こ
の砂嵐は風に乗って東へ飛んで
行き、韓国と日本はその被害を
免れることができなかった。ま
ことに忍びないことだ。

しかし翻って考えると、砂嵐
は連綿として数千里も続してい
るのだから、一国だけでそれを
コントロールすることが果たし
てできるだろうか。現在の世界
は、各国の相互依存が日に日に
強まっている時代である。日本
の「国平和主義」がなかなか実
現できないと同じように、一國
による環境保護もなかなか思
い通りにはいかないのだ。

現在、日本では、中国へポラン
ティアで植樹に行くブームがお
こり、今年には中国に行く人が特
に多いと聞く。こうした活動は、
自分にも他人にもプラスになる
ことなので、大変良いことだ。日
本は環境保護の技術と資金を
持っているのだ、これからも中
国や世界の環境保護に対して、
さらに大きく貢献すると私は信
じている。

枣庄日报

2002年2月 星期二
10 农历辛巳年
十二月廿九

ZAOZHUANG RIBAO 第7432期

国内统一刊号: CN37-0038 网址: WWW.ZAOZHUANGDAILY.COM.CN

韩喜凯会见日本客人

本报济南2月8日讯 今天下午,中国孔子基金会会长、山东省政协副主席韩喜凯,在济南会见了以小松昭夫为团长的日本孔子文化交流访问团一行。

会见中,韩喜凯首先对客人的来访表示欢迎。他说,孔子是中国古代伟大的思想家、教育家,开创了儒家这一中国历史上重要的思想文化流派,记载孔子主要言行的《论语》是中国思想文化发展史上最重要、影响最大的典籍之一。儒家学说博大精深,对人类文明的进步和发展作出了重要贡献,有着超越时代、超越国界的深远影响。

韩喜凯说,山东作为儒家学说的发源地,我们感到自豪,也感到责任重大,应该为儒学研究做更多的工作。他对客人研究传播儒学的热情表示钦佩,希望双方携手合作,加强对孔子思想的研究与交流。

省委宣传部副部长、外事办主任王兆成,首外办主任张有明,中国孔子基金会秘书长张树勋参加了会见。

(记者 张宇鸿)

日中经贸交流代表团访问我市

马金忠等会见客人

本报讯 以日本小松电机产业株式会社社长小松昭夫先生为团长的日中经贸交流团一行7人,于2月9日来我市参观访问。当日下午,市长马金忠在枣庄大酒店会见了来访的客人。副市长李守义及市外办、市外经局、市贸促会的负责同志也在座。

马金忠在会见时说,值此中国传统节日——新春佳节即将来临之际,我们高兴地迎来了日中经贸交流代表团的尊贵客人。在此,我谨代表枣庄市政府和全市人民,向远道而来的朋友们表示热烈的欢迎和诚挚的问候。

马金忠说,日本经济发达,在科技、管理、人才和资金等方面具有很大优势,我们在经贸合作、文化交流方面具有良好的传统和极大的互补性。今天来访的各位,都是枣庄的老朋友,对枣庄的情况有比较深入的了解。我们热切希望与各位老朋友,并通过大家,扩大与日本工

商、经贸、文化体育界的交流,增进友谊,加强合作,共创美好未来。

会上,代表团与我市领导及有关职能部门负责人就双方合作事宜进行了洽谈。

马金忠、小松昭夫分别代表市政府和代表团互赠了礼品。(记者 刘振江)

2001年8月 星期五
24 农历辛巳年
七月初六

ZAOZHUANG RIBAO

第7266期
今日八版

国内统一刊号: CN37-0038 网址: WWW.ZAOZHUANGDAILY.COM.CN

日中文化经济交流团访问我市

马金忠会见了客人 李守义陪同参观

本报讯 由日本第三回访中国文化交流代表团团长、HNS人间·自然·科学研究会小松昭夫产业株式会社社长小松昭夫率领的日本客人一行5人,8月22日至23日在我市进行友好访问。

市长马金忠、副市长李守义、市政府秘书长杨家清在枣庄大酒店会见了日本客人,马金忠向客人介绍了我市政治、文化、经济发展情况以及招商引资的投资环境和优惠政策,感谢小松先生为双方之间政治、文化、经济交流做出的努力。

马金忠说,今年9月16日,枣庄将举办第二次经贸洽谈会,欢迎交流团介绍更多的日本朋友到枣庄来。

22日上午,日本客人在李守义的陪同下,参观了枣庄市恒力青铜艺术有限公司,李守义邀请小松先生共同为刚刚完工的雕塑孔子像揭幕,日本客人对该公司的雕塑产品赞不绝口,并当即拿出两张日本治水英雄的图片,订做巨型雕塑。

22日下午,日本客人来到台儿庄大战纪念馆,小松

昭夫沉重地来到纪念碑前。小松先生说:“明年是日中邦交正常化30周年,日中两国人民愿意进一步加强文化、经济交流,渴望世界和平。但今天,日本国内却产生了不和谐音,日本首相公然参拜靖国神社,右翼分子蓄意篡改历史教科书,激起了中国和有关国家人民的强烈愤慨。

台儿庄是历史圣地,遗憾的是,在台儿庄参战的日本军人中,有我家乡松江63连队的士兵,我作为他们的子孙后代,从心里向中国人民谢罪。”随后,日本客人参观了展览及台儿庄大战全景画馆,观看了大战实地录像。在纪念馆大厅,小松先生眼睛有些湿润,奋笔写下:

“前事不忘后事之师。”

在市领导和台儿庄区领导的陪同下,日本客人乘船游览了台儿庄大运河。其间,双方还就一些合作项目进行了诚恳的磋商。23日晨,日本客人结束了在枣庄的访问。

(记者 田磊 杨军)

图为市长马金忠会见小松昭夫



日本の協力呼びかけ 中国・棗荘市投資経済交流説明会



中国山東省の棗荘(ツ)で開かれ、山陰両県から「アオチュアン」市による企業代表約百人が参加した。棗荘市の進めるプロジェクトが紹介され、日中西国の経済交流や友好親善を誓い合った。

山東省南部に位置する棗荘市は人口三百六十五万人で、石炭など豊富な地下資源を利用した化学工業や農業が盛ん。国共合作軍と日本軍松江六三連隊の激戦地でもある。今回の説明会は大阪、東京で開かれる同省投資貿易説明会に合わせて、同市などと文化経済交流を進める「小松電機産業」(本社・松江市乃木橋町、小松昭夫社長)と「人間・自然・科学研究所」(同)が企画した。観光施設を設立すること

棗荘市からは馬金忠市長ら十七人が出席。馬市長は「四国は友好三十周年を迎える。日本の技術を取り入れ、棗荘市への理解を深めてもらい、双方の発展を促進したい」とあいさつ。茨城開発や、特産品であるサクロを使ったワイン、ドリンクの生産など、同市が力を入れていた対外協力プロジェクトを説明し、協力を呼びかけた。また日中国交正常化三十周年を記念し、同研究所が中心となって同市に環境、健康、平和をキーワードにした観光施設を設立すること

中国・棗荘市への投資説明会開催

松江会場に30人参加
地域文化経済で日中交流進める



日中国交正常化三十周年を契機に、地域文化経済を通じた両国間の交流促進を目指す。中国・山東省棗荘市への企業誘致についての説明会。主催・棗荘市。が、松江市内のホテルで開かれた。県内企業を中心に約八十人が参加。棗荘市での投資環境について説明を受けた。

棗荘市は中国の一大食糧生産地である同省南部に位置し、近隣の滕州市と合わせた人口は約七百二十万人。六十四億円の埋蔵量を誇る石灰石をはじめ、花こう岩、石英、石灰石などの資源を有し、同市の石灰化学工業の中心都市として発展する。説明会は、大阪での同省の投資誘致・貿易懇談会にあわせて、同市と交流を進めていた小松電機産業(松江市乃木橋町)が窓口となり開催が決定した。同市は人民政府経済貿易交流団(団長・馬金忠市長、を編成し、来松高松・ノース生地生産や炭鉱建設など同市が進め

る三十のプロジェクトと資金面などの支援を紹介した。

馬市長は、「日本の経済発展を受け、口

中間で広く友人を作り、貿易交流を促進するの

が、訪問の目的」とあい

さつ。日本企業のプロジェ

クト参加を求めた。

小松昭夫小松電機産業

社長は「交流が実を結ん

だ」と喜びを語った。

この機会に新しい文化、経済の交流をしていく」と語っていた。

中国・棗荘市に観光施設

人民政府と建設で覚書

松江・HNS研究所

覚書に署名する小松昭夫HNS研究所代表と松江市内のホテルで

愛し、覚書に調印した。

施設は、同市の観光公

園「棗荘市福風観光遊

園」の敷地内に建設を予

定。日本国内で参加企業

を呼び、同研究所と同名

の会社を創設し、同市特

産品の石榴(SHAWA)、

棗(なつめ)、石灰石な

どを利用した観光資源の

開発に着手する。

松江市内のホテルで行

われた調印式には、棗荘

市の馬金忠市長と小松昭

夫同研究所代表らが出席。調印後、馬市長は「日中は海」を語った。近代化が進む日本と資源が豊富な中国には補完性がある。より協力関係を築くため、基礎を固めていくことが大事。協力パートナーとして視察、観光に来てほしい」とあいさつした。



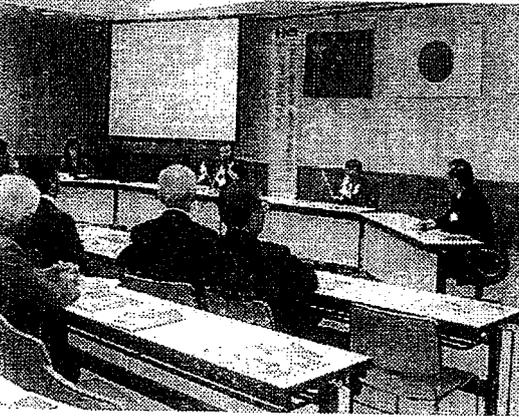
我が国と世界の公平平和に「つなぐ」に向けての歩みが始まる。

日中正常化30年記念講演会

松江小松電機
ホールで

東アジアの交流テーマに

日中国交正常化三十周年を記念し、東アジアの交流、経済をテーマにした講演会と座談会(主催・人間・自然・科学研究所)がこのほど、小松電機産業セミナーホール(松江市乃木)で行われた。元北京大教授の張碧清北京中日民間文化交流センター長が日中関係を中心に講演。座談会では、張氏を含む四人のパネリストで、アジアの交流について話し合った。



追、威厳のある中小企業が必要」とした。また、歴史認識、領土問題のある日中関係について、「交流なければ、理解、信頼、平和、安全もない。交流は一番大切」と指摘。「日本各地との交流について、機会あったら紹介し、努力していきたい」と述べた。

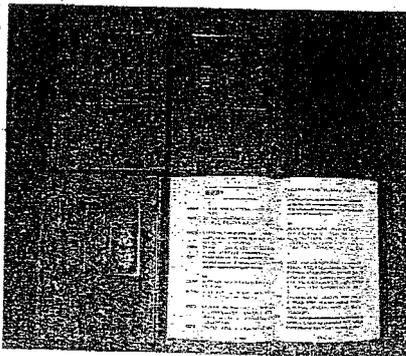
座談会は、張氏のほか、東洋技研(鶴岡)の寶秀煥代表理事、小松昭夫・小松電機産業社長らがパネリストとして参加。「若者が歴史を勉強することでもっと近くなる」「兄弟としての交流すること、経済活動をはじめ、うまく展開できる」と確信するなどの意見が出された。また、小松社長は、三十周年を記念して同研究所から出版された日中英対訳の「論語」を紹介。「和して同ぜず」の言葉を紹介し、交流の大切さを訴えた。

東アジアの交流について話し合う張碧清北京中日民間文化交流センター長ら。松江乃木の小松電機産業セミナーホールで

山陰経済ウエブ

2002. 2. 19 2002. 2. 19

小松電機産業のHNS研究所 論語を記念出版



HNS人間・自然・科学研究所が出版した「新版 論語」

東京事務所を開設

小松電機産業(松江市乃木福富町、小松昭夫社長)のHNS人間・自然・科学研究所(代表・小松社長、0852-32-3663)はこのほど、東京都港区のビルに東京事務所を開設。日中英三方国語対訳の「新版 論語」を記念出版した。

同研究所は「世界恒久平和を生み出す新たな文化の創造」を目指し、郷土の偉人や日中・日韓関係の研究、出版活動を行っている。これまで出雲地方を中心に活動しており、日本国内とアジア圏に活動の輪を広げるため、東京事務所の開設を決めた。

床面積は約百平方メートル。同社の手掛ける上下水道設備遮断制御監視システム「やくも水神」の展示場を兼ねる。スタッフ三人が常駐し、研究所の事業PRや研究、出版活動の情報収集などに当たるほか、研究所の趣旨に賛同する国内外の研究者を客員研究員として招く。

東京事務所の住所は〒105-0001 東京都港区虎ノ門五-1-11、虎ノ門40MTビル9階(03-5408-7518、ファクス同3435-1238)。

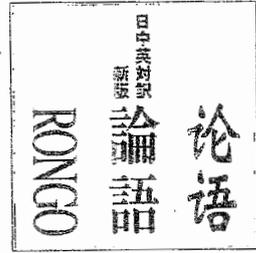
「新版 論語」は、同研究所のセミナーで昨年講演した孔子文化大学(中国・山東省曲阜)教授の孔健(本名・孔祥林)氏が総編纂を務めた。四百三十二ページで原文、日本語読み、日本語訳、現代中国語訳、英語訳を掲載している。原文が「子曰(いわく)」の始まり方に代表される簡潔な語録体(短句)で書かれており、どこからでも読める。非売品で三千部印刷。希望者に配布する。

同研究所では東京事務所開設と論語出版を記念し、三月十日午後二時から小松電機本社で講演会・座談会を開く。元北京大教授の張碧清さんが講師を務める。会費二千元。出席者には論語を贈る。申し込み・問い合わせは同研究所。

人間・自然・科学研究所

日中英対訳新版「論語」出版

HNS人間・自然・科学研究所 事務所開設し、新たな一歩を踏
所（松江市乃木福富町七三五）み出した。
一八八 小松昭夫代表）は、サ これを記念し、世界恒久平和



HNS人間・自然・科学研究所

ンフランシスコ講和条約締結五十周年、日中国交正常化三十周年、日韓国際交流を迎えた本年、当研究所のあゆみも創立から八年を迎えたこと、これまでの出雲地方を中心とした活動から日本、そしてアジア圏に活動の輪を広げるべく、このたび、東京虎ノ門四十森ビル九階に新事務所

を生ま出す文化の創造をめざして、日中英三ヶ国語訳『論語』を出版した。
広辞苑によると、論語とは四書の一。孔子の言行、孔子と弟子・時人との問答、弟子たち同士の問答などを収録した書となつてゐる。
一九八八年ノーベル賞受賞者

バリ宣言において、人類が二十一世紀に生き残り、行くには二千五百年前を振り返り、孔子から智慧を採る必要がある。また、一九九九年孔子生誕二千五百五十年を記念して北京で開催された、儒学と二十一世紀の人類社会の平和と発展シンポジウム（十七カ国参加）では、「孔子の理念と教えが現在の諸問題に智慧を与える一」ことが確認された。これを踏まえて、今回の出版となった。

孔子の名言集に「その身正しければ、命せずして行なわる。その身正しからざれば、命すといえども従わず」とある。要約すると、自分の行ないが正しければ、命令しなくても人はついてくるし、そうでないときは命令してもしたがわぬ。およそ人の上に立つほどの者はかならず心すべきこと、となつてゐる。

今回出版の三ヶ国語訳の論語は書店にはなく、入手の問合せ先は、人間・自然・科学研究所 電話リ〇八五二一三二一三六三六 担当・須藤まで、

Chinese Dragon 2002年(平成14年)3月5日



日中英対訳論語を出版

日中国交正常化30周年記念

人間・自然・科学研究所 日中国交正常化30周年を
所（HNS研究所・代 記念し、日中英対訳一論の出版を通じて、恒久平
表リ小松昭夫・小松電機 語II写真IIを出版した。和を生み出す新たな文化
産業社長）はこのたび、 同書は原文と日本語訳の創造をめざして運動を
み、日本語訳、広めていきたい」として
現代中国語
訳、英語訳で 8日には、フォーシー
構成されてい ズンズホテル椿山荘（東
る。総編集者 京都文京区）で出版記念
は山東省曲阜 とHNS研究所東京事務
市・孔子文化 所開設記念を兼ねた講演 408・751
大学教授であ 会と披露パーティーを開 催する。元北京大学教授
幹の孔健が務 務する。元北京大学教授
めた。 センター主任・張碧清氏

「島根の魅力広めたい」

中国・青島のマスコミ代表団 PPR目的に来県

中国山東省青島市のマスコミ代表団が二十五日、県内を訪れた。日中間の友好関係を深め、島根の魅力为中国でPRするため、企業訪問や観光などをした。

日中交流を進めている「人間・自然・科学研究所」(所長・小松昭夫)が島根の歴史などを紹介した。その後、一行

県内企業の作業現場を視察する青島市のマスコミ代表団



はIT(情報技術)関連の県内企業を見学し最新技術を学び、堀川遊覧船に乗り玉造温泉など県内の観光地も訪問した。

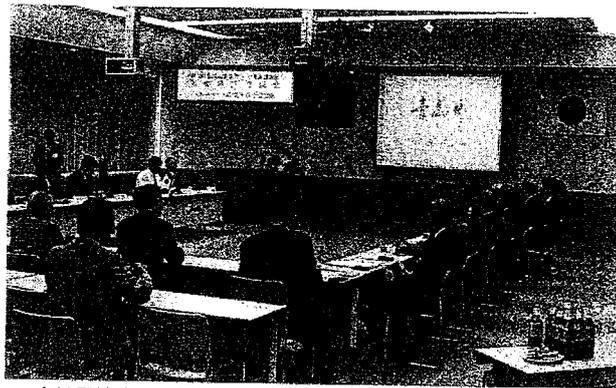
同市対外文化交流協会の王永生会長(まご)は「今年には日中国交正常化三十周年に当たり、意義ある訪問になる。島根の素晴らしい自然や企業を、ぜひ中国で広めたい」と話した。

2001. 8. 21

山陰経済ウイークリー

青島人民政府(中国)と経済交流

小松電機産業のHNS研究所



小松電機産業で開かれた「中国青島市人民政府・中海宍道湖圏文化経済交流会」=松江市乃木福富町

副市長ら6人が視察

小松電機産業(松江市乃木福富町、小松昭夫社長、0852・32・3636)のHNS研究所(同、小松昭夫代表)はこのほど、中国山東省・青島市人民政府の関係者六人を招き、交流を深めた。一行は米子市や境港市、松江市内の企業を訪問、経営の実態を視察した。

同研究所は一九九四年に設立。郷土の偉人や日中・日韓関係の研究や出版などの活動を行っている。今年五月には約八十人の訪中団を組織し、中国の西安、曲阜、濟南、北京を訪問。山東省の省都・濟南での交流などが

緑で、周嘉賓副市長らの訪日が決まった。

青島市人民政府の一行は六人で、団長は周副市長。聯ダイマツ(米子市旗ヶ崎)などの企業を視察し、小松電機産業本社で「中国青島市人民政府・中海宍道湖圏文化経済交流会」を行った。

道湖圏文化経済交流会」に臨んだ。青島市のメンバーをはじめ小松代表、大昌(松江市乃木福富町)の古賀隆昭社長ら計約三十人が参加した。

交流会発起人代表の原徳興(松江市西塚島一丁目)の後藤信社長が「山東省は日本に近く、海を通じてこれから交流が急増するだろう」とあいさつ。周副市長は「島根、鳥取の企業を訪問し、経済発展するとの強い印象を持った」と話した。

周副市長らは青島市の現況や青島に進出している日本企業、青島港の規模、取扱量を紹介したほか、八月十八日―九月二日まで開かれる「青島国際ビル祭り」、十月に開催される「中国青島国際葡萄酒(ぶどう)酒技術及び設備博覧会」のプレゼンテーションを実施。日本側は小松電機産業の小松光雄専務が同社のヒット商品である「シートシャッター門番」や「やくも水神」の説明を行った。

(第3頁掲載可)

小説・治水の偉人 —大榎七兵衛

寺井 敏夫著

義民の遺業克明に描く



本書は、出雲の高瀬川開削を治水・開拓事業に尽くした大榎七兵衛の、親子孫三代にわたる苦闘を描いた伝記小説である。松江藩とのあつれきから親子二代が幕藩に交わり、三代目にしてようやく念願を達成、名譽を回復するという仕大は物語である。

通読して、出雲平野の開拓にかけると七兵衛の志の高さと、わが身の不幸を顧みぬ大榎家三代の歇身のな動きあつりを克明に描いた、スケールの大きさに圧倒される。

特に、作品が鋭得力を持っているのは、作者が「義民の親類」で主人公の七兵衛をとらえているからである。周知のように、義民とは、封建時代に社会の底辺にいたる農民や町人のために、わが身と身代をなげうって死へした人のごとである。大榎家三代の治水事業は、まさに「死に代」にあつて出雲地方の農民を救うための義民による義舉であった。

主人公が活躍した一六〇〇年代は、戦国時代が終わわり、各藩が藩本主義のもとで競って新田開発に伴う治水事業を推進した時代であった。松江藩も財政を確立するため、出雲平野の開拓は至上命題であった。

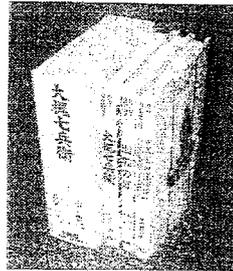
他方、七兵衛は農民を貧困から救済したいという一念で、治水事業に精励した。これらの治水事業で、出雲平野の米作は一筆に一万石以上の増収となり、斐伊川から運河を通じて奥出雲・日本海への物流が可能になったのだから、いかに大事業であったか分かる。

財政の確立を目指す松江藩は、貧しい農民を救済しようとはしなかった。七兵衛との対立不可避であった。大榎親子に地所・身代の割奪(はくた)し、如刑などの数々の運不届な災難が降りかかる。

作品は、計算された幕政や幕藩体制の文芸、幕藩の語り口で出雲の出来栄を語った。作者は元松岡藩士で、現住、高瀬川文化センターで活躍。これまで『高瀬川』、『高瀬川の歴史』を出版し、注目をされている。ぜひ一読をお勧めする。

(HNS人間・自然・科学研究所・一六〇〇年)池野誠・『高瀬川文化センター』

日刊工業新聞 2002年(平成14年)8月27日



出雲の偉人「大榎七兵衛」

HNS人間・自然・科学研究所(松江市、小松昭夫代表)小松電機産業社長、0852・32・3636)は、開拓と治水に生涯をかけた出雲の偉人「大榎七兵衛」を描いた児童文学(村尾靖子著)、小説(寺井敏夫著)、『漫画(寺戸良信著)の3部作(写真)を出版した。

児童文学・小説・漫画の3部作 HNSが出版

いずれも、未来をみすえ、時代を超えた人間愛、郷土愛の大切さを訴える。初版は3000部。価格は3冊組セットで4200円(消費税込み)。同研究所が発行する「人と水のシリーズ」3作目。

これまでに郷土の治水の偉人として「周藤彌兵衛」、「清原太兵衛」、いずれも3部作を出版している。同シリーズは、HNSが提唱する「心と高い志を通して地域の振興を図る」という「一村一志運動」の一つ。

HNS研究所の「太陽の國 IZUMO」(税込み2500円)が、刊行された。地域づくりの手引書としても、歴史の現代を大の巻に生かすためのヒントをなす。入場券を添えることで、少なからずイベントを手当てしてくれる。

しかも、行政が書いた本ではない。地域で、地域とともに、未来を具現化する。大手由を生かすことで、命題としてある企業が、ユートピアのモデルとして山陰を舞台に「太陽の國 IZUMO」を掲げて、二十一世紀のこの地方の運命的なありかを示し、具体的に示したものである。

「今、世界は環境破壊と地域紛争の多発により人類救済が、それ以外の共通の目的を以て、的確な役割を担う必要に迫られている。みんなが心豊かに生きていくための地球社会を創造する。その地球に立ちかかっている」(この現状認識は、多少皮相的ながらも議論を呼ぶべき人はいない)。

そして本文で「太陽の國 IZUMO」の目的「人類と人間」に

地域づくりの具体的な処方せん提示

地球は「何をなすべきか」と意識して人類が進んできた歴史を、関係の新聞雑誌記事なども引用して大観した後、山陰地域の歴史、地勢学的な特徴、特異性を示して「心の首都(松江市市街地再開発構想)」「ゼロエミッション・小規模環境(中海・宍道湖圏域の新構想)」「なごみ地域づくりの具体的な処方せんを掲げる。

本書を出版したHNS研究所は、シートン・チャーターと下水などの浄化プラントメーカーとして知られる小松電機産業(本社松江市)が、人間・自然・科学という極めて今日的・哲學的テーマを追究するために設立した機関で、本書は主に小松電機社長の小松昭夫氏自身が執筆したものである。

HNS研究所は「一村一志運動」を提唱。これまでに江戸時代末、独力で鳥根集八雲村の切り通しを掘削し、恒常的だった意平川の氾濫はほとんどをなくした佐田「須藤弥兵衛」同じく夫道湖の氾濫から松江を救うため佐田川を掘削した「浦原本兵衛」などを出版しているほか「中海本庄十段の未来構想シンボル」(緑むすびシンボル)などミニミニな公開会議を主催。



今年も十月二十日、松江市のへんじきメッセで、環境教育活動の権威・高橋康俊博士が「千年記念事業太陽の國 IZUMO」シンボルを掲げる。

工業新聞 Business & Tech



長HNS研究所の長が突刊した「太陽の國 IZUMO」

混迷状況を打破し 国際共生社会を

【松江】小松電機産業社長でHNS(人間・自然・科学)研究所(松江市乃木福富町、0852・32・3036)所長の小松昭夫

さんが、21世紀の地球のあり方を提案する「太陽の國 IZUMO」(A4判、154頁、2500円)を発売した。

著書は現状を混迷の世紀末と指摘し、この状況を打破するため国際共生社会を提唱。そのための具体的なプランを提示している。「心のインフラ整備! 感謝と戦争の歴史記念」「心の首都(松江市市街地再開発構想)」「ゼロエミッション・小規模環境(中海・宍道湖圏域の新構想)」「未来を拓く研究機関」に4大別、地方に当ってはめて事業提言している。10月に演会も開催する。

HNS研究所第二回訪中研修団

小松昭夫社長・孔子文化大学客員教授に推される

HNS(人間・自然・科学) 研究所と、同研究所の母体である小松電機産業(株)(松江市乃木福嘉町 松江湖南テクノパーク第七号 小松昭夫社長)主催で、中日文化経済交流団中国視察ツアー一行八十名は、五月七日出雲空港に着陸、訪中研修を有意義なものとして解散した。

中国文化経済交流団中国視察ツアーに当たり、同行した原田トレイディング(株)(松江嫁島町)の原田弘吉代表取締役会長は、それぞれの視察地の情景を描写した紀行を綴っている。その中から次のように選り取ってみた。

(俳句連明子)

〈西安〉

長安の城門高し夏燕

桜門の空高く、鋭い声を発して燕が飛び交っていた。

夕焼けて大雁塔の階上る

黄塵の空が淡く夕焼けて、七層の大雁塔の壮麗な姿は、正に西安のシンボルである。

若葉して大師求法の青龍寺

(俳句法(くまう))。湖の緑、池をめぐる杜若(かきつばた)——日本式庭園に心が和む。弘法大師がはるばる遠い異國の地



〔中国人民抗日戦争記念館〕にて

で仏法を求め研鑽されたことに感銘。

〈濟南・曲阜〉

大黄河ほとりの町や柳絮とぶ

(俳句葉(りゅうじよ))。黄河に近く泉の多い美しい濟南の町柳の絮(わた)が風にとんできて暖かく我ら一行を迎えてくれた。

濟南より専用バスにて曲阜の孔廟、孔府、弘林を訪う。孔子文化大学にて

葉風や弘大教授授けらるる

小松昭夫社長、孔子文化大学客員教授に推される。

新緑の石燈のみ孔廟へ

孔子の仁徳は、今も中国人のたちの崇敬を集め、参詣の人で溢れている。

桐咲くや孝子生まれしところにて

聖廟と金文字で書かれた立派な額の門をくぐり孟廟に参拝する。「孟母三遷の教え」で名高い孟子の母の墓を拝む。空は晴れ、一帯に桐の紫の花が咲いていた。

〈北京〉

中国人民抗日戦争記念館を訪ね、中国人民に如何に大きな損害と苦痛を与えた戦争であったかを色々な展示の資料を見て知る事ができた。

小松昭夫は趣意書を読み上げ、中日両国はもとより世界人類の恒久平和につながる、強固な友好関係の樹立を訴え、花籃を供え、寄付金を贈呈された。セレモニーのあと、記念館館長を囲んでの懇談会は誠に和やかな話りのひとときであった。

蘆溝橋の渡り戻りぬ若葉雨

蘆溝橋の現地に、中国人民抗日戦争記念館を視察したあと、北京市街に入る。

アカシアの花咲きめし北京立つ

連日、六時モーニングコールにつづく視察のハードスケジュールに、少し疲れて鼻風邪をひいたが、一行八十名、事故もなくそれぞれ楽しい思い出を胸に帰国した。

謝々

HNS(人間・自然・科学)研究所 小松電機産業

「抗日戦争史研究暨和平教育基金会」へ 記念館訪問を契機に百万円を贈呈

HNS(人間・自然・科学)研究所と、小松電機産業(株)(松江市乃木福嘉町七三五一-一八八 松江湖南テクノパーク第七号 小松昭夫社長)は、同グループ主催で日中文化経済交流団中国視察ツアー(小松昭夫社長)を五月二日から七日の日程をたてて行った。今回は第二回(一回目は昨年九月)で対話の輪が広がることを祈念して、今後毎年一回をメドに視察ツアーを継続して行う計画を立てている。

第二回訪中研修団の趣意書を要約すると、ユーラシア大陸の東端に位置する日本列島は、古くより中国、朝鮮半島から、様々な技術や知識、文化を享受し、四季の変化に富む豊かな自然の中で、稲作文化を中心に国家を形成、千六百年以降、三百年に及ぶ世界史上例のない平和な時代を築いた。十九世紀中頃、アメリカ合衆国の開国要求を契機に、世界的植民地争奪戦に恐怖を受けた日本は、産業革命で生まれた革新的な西洋文明を取り入れ、明治維新を断行した。その後、国内外の劇的変動のなか貴国を初め多くの国々に歴史的災難を与え、禍根を残し



左側小松昭夫社長、右側王局長

が必ずしも良好でない状況下、両国の多くの方々の努力により、古くから日本で縁結びの地といわれ、歴史的にも中国大陸と深い繋がりがあった「出雲」から中国南方航空特設便にて、中国人民抗日戦争記念館をはじめ、

古都西安、濟南、曲阜が首都北京の訪問を実現することを心より感謝します。趣意書に添えて、貴会を契機に、「抗日戦争史研究暨和平教育基金会」に百万円を贈呈し、今後ともご支援のしくお願ひ申し上げます。 第二回訪中研修団 所長 小松昭夫

小松電機産業

「下水道展」 小松電機産業(松江市高野七三五一-一八八 電話二二二二-二二二二)

「下水道展」が開幕に当たって、上下水道制御・監視システム「新水

ご招待 小松電機産業(株)展示ブース 1ホール 小間番号1-39

入場無料

下水道展'01東京

主催 社団法人 日本下水道協会

トワキシステム」と、構成する「新マンホール制御盤」、処理施設制御盤「新パッケージ水神」を発表する(特許申請中)。詳細などについては、電機産業へ問い合わせを

【寄稿】

雨の蘆溝橋

常議員

原田トレーディング(株)会長

原田弘吉



記念館を前にした視察団一行

昭和12年7月7日、蘆溝橋爆破で口火を切った日中戦争は、小生が旧制中学校2年の時で、兄たちの同僚が、次々召集された事をはっきりと覚えている。

今度HNS(人間・自然・科学)研究所主催の中国大陸を旅する視察団の一員として、去る5月、北京近郊の蘆溝橋のそばにある、中国人民抗日戦争記念館を訪れた。規模壮大な本館の六つの展示ホールのほかに、一つのハーフ、パノラマ館と二つの四合院の臨時展示室もあり、展示総面積は5千余平方メートルに達する。

この記念館は、日中戦争を記念し、民族の独立のために身を献げた烈士たちを偲び、後世の人々を激励して、中華民族の浩然たる正気を永続させるために建てられたと記してある。館内

の数々の写真や色々な展示の資料を見て、この戦争で中国人民に如何に大きな損害と多大な苦痛を与えたか、日本人として胸痛む思いで見学したのである。

昔、われわれは孔子の論語をひもとき、李白や杜甫の詩を誦し、また中国と日本とは、古くから互いに文化の交流を通じて、深い結び付きの間柄であった。

小松昭夫団長は、記念館館長を前に、趣意書を読みあげ、長い歴史の中で不幸な過去の一時期があったが、「前事不忘 後事之師」一前におこなったことを忘れないのは、後のことをするのによい参考になるの意。一史記の言葉を引用し、歴史に学び現実を直視し、21世紀は、中日両国はもとより世界人類の恒久平和につながるよう、強固な友好関係の樹立を、声を大にして訴え、花籠を供え、一同合掌したのである。

セレモニーのあと、貴賓室で団長から寄付金の贈呈が行われ、終って記念館館長を囲んでの懇談会は、誠に和やかな語らいのひとつときであった。席上思わぬハプニングから、小生が安来節をうたう羽目になり、老いらくのノドをふり絞ってうたいあげたのも、一興であったであろうか。

折りしも降り出した小雨の中、一行は傘をさして蘆溝橋を訪ねた。

乾期で涸れた、2百メートル余りの川に架る橋は、石造りで、欄干の柱には石獅子の彫刻のある立派なものであった。

64年前の昔の事が夢のように思われた。

若葉冷えして蘆溝橋雲重く
蘆溝橋ほり戻りぬ若葉雨

碧明子



花籠を供えた視察団一行



安来節を歌い終わって館長と握手する筆者

企業は人なり

4



小松昭夫氏

難民申請をしていた中国人女性が出産し、この母親が失踪し残された女兒への支援活動、また明治以降の日本による中国・朝鮮の侵略をテーマとした劇「再会」のバックアップなどを手掛けるHNS(人間・自然・科学)研究所。この研究所を開設したのが、島根県の電機メーカー、小松電機産業。同社はコンピュータと制御装置・センサーをシステムの組み合わせで、新

研究所開設で社会に貢献 反戦劇と中国人孤児支援

小松電機産業 代表取締役 小松昭夫氏

しいテクノロジーに挑戦する制御システムメーカーだ。もともととは制御装置や配電盤のメーカーだったが、現在では上下水道施設の遠方監視自動制御装置をはじめ幅広い展開をしている。

身内、友人の死を通して、死を自分の中で現実問題として考えられるようになり弁証法的な考え方が身につくと、「P」パーソナリティができてくる。人はこの過程を経て成長するのだという。

そこで必ず通過するのが会社だ。小松氏は会社という概念を、家族が生きるためにする「家業」、同じ生きるなら我欲を最大極限まで追求する「企業」、その我欲を抑制し理想的な社会へ誘導する「事業」と、三つの業として考えている。そして企業活動というのは一般的に船に見立てられる。人が集まり、より堅牢で設備の整った船を作り、船団を作って大海原を航海する。事業とは、その海を理想的な状態に作ることなのだ。

代表取締役の小松昭夫氏は、七三年に十萬円の資金と一台の中古車、工具箱一つで、弟と二人で身を起こした。途中様々な苦境を乗り越えた小松氏は「人にとって大事なものはV S O P」と述べる。若い時には「V」バイタリティにバラエティ。いろいろなことを一生懸命にやる。そうすると一つくらいものになるものが出てくる。それが「S」スペシャリティ。ところが思うようにはいかない、社会の波にもまれて、自分なりの人生観、「O」オリジナリティが生まれる。そして、時を経て、

「人の心のインフラ整備が求められており、これが事業

「創業者というのはどうしても自分の会社に固執するので、後継者の養成が難しくなる。だから、自分の会社よりも他のことに目が向くと、結果として後継者が育ちやすい環境が生まれるのではないかと(笑)」と朗らかに話す小松氏の目には、自身が理想とする「天寿が全うでき、楽しく愉快に持続的に生きられる地球社会」がくつきりと映っているのだろう。

追蹤報道 小松社長呼籲 李雪梅來本報受捐



本報訊(記者 沙飛)本報上曾登出尋找受捐代理人李雪梅的《特殊尋人啟示》為了進一步了解情況,1月11日上午記者在小松電機產業株事會社東京支社採訪了小松昭夫社長。

在採訪中記者進一步得知,小松社長之所以能在島根縣發起為李雪梅女兒捐款的義舉,是有其深刻的思想根源的。小松社長對於日本過去有著清醒的認識,他曾到南京“侵華日軍南京大屠殺紀念館”、蘆溝橋、旅順日俄監獄舊址等地對日本的侵略戰爭

進行反思。此外他還向北朝鮮災民捐獻了五百萬日元,在自己會社招收新人時,他注意招收中國留學生,力所能及地促進中日友好交流。按小松社長的話說就是想為中國,為中國人做點事。

在採訪時,記者代表本報也代表全體在日華人對小松社長對在日普通中國人及子女的關懷表示了感謝。小松社長也表示,希望通過本報能盡快找到李雪梅。

在採訪中記者還發現,小松社長還是位熱愛日中文化交流的有心人,他所領導的(HNSC人間·自然·科學)研究所不但編導出演了反映“殘留孤兒”經歷的反侵略戰爭劇《再會》,而且還親自著書論說日中友好的重要性,所以他身邊聚集了一熱愛日中文化人。因此,記者在採訪中還有幸見到了日本著名的作家早川和宏和漫畫家小室孝太郎,在採訪結束後,大家還暢談與展望了新世紀的日中友好關係等。(相關報道請見本報上期第4版)

東庄日報 2002年9月6日



HUA FENG 在日首家娛樂新聞週刊

華風新聞

第89期 2001年10月18日發行
每星期二發行 定價 每份250元
發行所:東京實業株式會社

http://www.hkz-1.com
E-mail: kf@hkfweb.com

24小時均一價格 全國通發135分

本報訊 昨日下午,以日本小松電機產業株式會社社長小松昭夫為團長的日本小松代表團拜會市政府。市委副书记、市長馬金忠,副市長李守文、吳承盛,僅泰及市政府高級書長陶家道等會見了日本客人,雙方進行了友好的交談。

馬金忠說,你們千里迢迢趕來參加第三屆中國寧波投資貿易洽談會,我謹代表寧波市人民政府和奉化市360萬人民,表示熱烈歡迎和衷心感謝!小松團長一直致力於中日兩國的友好事業和各領域的合作交流,是中國和寧波市的老朋友。今年的投資洽談會第三屆,規模比往年大,參會外賓人數比往年多,希望在這的新老朋友們借此機會多參觀、多交流,尋求和創造商機,促進雙方合作交流。

馬金忠說,小松先生一行逗留期間,除參加大會開幕式、項目洽談等活動外,還要舉行旨在促進中日友好和文化交流的孔子尊4尊銅像啟運揭幕式,向台儿庄大戰紀念館捐獻,獻花等活動,日程比較緊張,希望各位保重身體,生活愉快,祝中日友好和各領域的交流合作取得更大成果!

小松昭夫說,我曾多次來寧波訪問,每次都有好的感受,3年前我以營商來寧,路上用了8個小時,這次來不僅很順利,而且時間也大為縮短,說明寧波市及周邊地區有了大的發展,這些成績的取得是與寧波市領導和全市人民艱苦努力工作分不開的,這次來寧波,不僅要參加大會開幕式,項目洽談等活動,還要進行文化交流,感謝寧波市領導為我們提供這樣的機會,我們訪問寧波不僅有政府官員、教育界人士等,還有眾多企業家,希望成為大眾的好朋友,共同促進日中友好。

馬金忠和小松昭夫互贈禮物,並了解,願於9月8日、日本國日經新聞社社長

日本小松代表團拜會市政府

馬金忠等市領導會見日本客人

HNS研究所

四体銅像の除幕送出式

小松所長は来年の台児荘大戦65周年記念行事基金百万円を寄付

小松電機産業株(松江市乃木福富町七三五)の代表取締役社長、小松昭夫(右)が、HNS研究所(小松昭夫所長)が、日中国交正常化三十周年を記念して主催した「第四回訪中文化経済交流団」が九月四、八日、百名近くが参加して山形省を訪問した。

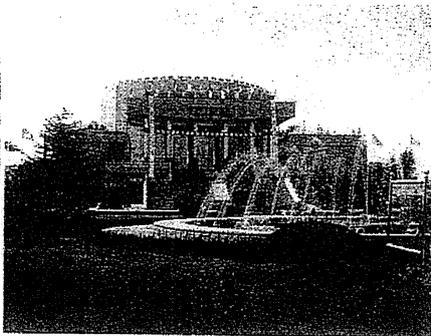
今回の訪問で、HNS研究所と山形省、松江市人民政府は、共同で自然療法研究センター建設のため調印した。日中偉人の銅像を

中国を代表する思想家である孔子と孟子、その思想を受け出雲の治水に多大な貢献をした、周藤彌兵衛、清原太兵衛、21世紀は水の時代、より多くの人に知ってもらいたい、という目的で、HNS研究所では、前々回の交流団訪問の際に、中国画報協会を通じ、松江市に銅像製作を依頼していた。今回、銅像完成を記念して除幕送出式典が開催された。

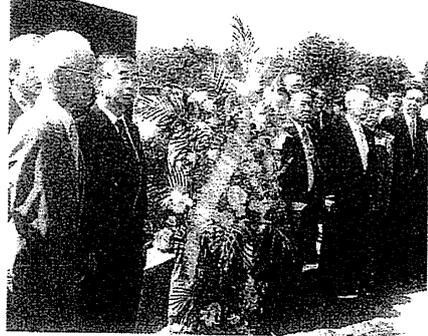
九月七日に松江市招商局広場で行われた式典には、中国山東政協副主席の王久祐氏も出席した。この外、各界

の著名人が多数出席して、孔子像、孟子像、周藤彌兵衛像、清原太兵衛像の除幕を行った。

孔子・孟子像は、日本の中国式庭園である鳥取県の燕趙園に来春設置される。また、出雲の治水の偉人・周藤彌兵衛と清原太兵衛の像は、鳥根県内に設置される予定。



一行は台児荘大戦記念館(右)を訪れた。大戦記念行事基金百万寄付(左)



台児荘大戦記念館に寄付

来年は、歴史的な「台児荘大戦」から65周年を迎える。交流団は「台児荘大戦記念館」を参観、小松所長が献花するとともに、来年に行われる「台児荘大戦65周年記念行事基金として100万円を寄付した。

こうした活動に対して中国政府からも高い評価を得ている。小松所長の日中交流の促進を、世界恒久平和の実現に繋がるものとして期待されている。

右から孟子像、孔子像、周藤彌兵衛像、清原太兵衛像



2002年(平成14年)11月18

日本海新聞

東洋美術が縁

日仏中の文化・経済関係者 燕趙園で交流深める

東洋美術に造詣(けい)が深いフランスと中国の文化、経済関係者を招いた懇談会が十七日、東郷町引地の中国庭園・燕趙園で開かれ、両国との交流に取り組む鳥取県内の各団体が、フランス国立ギメ東洋美術館中国

美術部長のジャン・ピエール・テロシュさん、中国画報協会長の邢雁さん、孔子の七十五代目の子孫にあたるチャイニーストロン新報社主幹の孔建さんらと交流を深めた。テロシュさんは東洋美術の権威として知られ、



県立博物館開館三十周年記念講演会の講師として来日。孔さんら中国側の訪問団一行は、松江市の小松電機産業(小松昭夫

3カ国の友好交流を盛り合うテロシュさん(左から3人目)、孔さん(右端)ら17日、東郷町の依水飯店

「燕趙園を視察した邢さんは「中国の古い都の特色が忠実に再現されている。聖人の像が設置されることで、もっと素晴らしい」と述べた。

孔建さんは「燕趙園に孔子と孟子の銅像を寄贈する計画であることから、現地視察のため訪れた。河北省は孔子のふるまひの交流を深めたい」と述べた。県立博物館をめぐり、孔建さんとテロシュさんの交流を深めた。

「第四回訪中文化経済交流団」

2002年9月4日～8日

台兒莊大戰記念館 献花 大戦65周年記念事業として100万円寄贈



孔子・孟子・周藤彌兵衛・清原太兵衛

四体の銅像除幕送出式





「中国・中海穴道湖園文化経済交流会」
2002年11月16日
於 小松電機産業セミナーホール



日·中·仏 交流会

2002年11月17日

於 燕趙園



孔子精神 中国で再興

北京の孔子廟に孔子の像が祀られている。孔子廟は、孔子の生誕地である魯国（現在の山東省曲阜市）にあり、孔子の没後、後世に傳へられた。孔子廟は、孔子の思想を伝える重要な場所であり、孔子の精神を再興させるための重要な場所である。



北京の孔子廟に孔子の像が祀られている。孔子廟は、孔子の生誕地である魯国（現在の山東省曲阜市）にあり、孔子の没後、後世に傳へられた。孔子廟は、孔子の思想を伝える重要な場所であり、孔子の精神を再興させるための重要な場所である。

孔子の思想は、中国の文化の根幹をなしている。孔子の思想は、儒教の中心であり、中国の政治、経済、文化に大きな影響を与えている。孔子の思想は、中国の歴史を形作る重要な要素であり、中国の文化を代表している。

孔子研究の発展と孔子文化の再興

孔子研究の発展は、孔子文化の再興の重要な要素である。孔子研究の発展は、孔子の思想をより深く理解し、孔子文化の魅力を再発見するための重要な手段である。孔子研究の発展は、孔子文化の再興を促進し、中国の文化の繁栄に貢献している。

背景に民族主義への傾斜

孔子文化の再興は、民族主義の背景で行われている。民族主義の背景は、孔子文化の再興を促進し、中国の文化の繁栄に貢献している。

孔子文化の再興は、中国の文化の繁栄に貢献している。孔子文化の再興は、中国の文化の魅力を再発見し、中国の文化の繁栄を促進している。

孔子文化の再興は、中国の文化の繁栄に貢献している。孔子文化の再興は、中国の文化の魅力を再発見し、中国の文化の繁栄を促進している。

孔子研究の発展と孔子文化の再興

孔子研究の発展は、孔子文化の再興の重要な要素である。孔子研究の発展は、孔子の思想をより深く理解し、孔子文化の魅力を再発見するための重要な手段である。孔子研究の発展は、孔子文化の再興を促進し、中国の文化の繁栄に貢献している。

倉吉整備局

孔子と孟子の銅像建設

台座など 近く工事 中国庭園近くに

県倉吉地方県土整備局は、東郷湖羽合臨海公園広域公園の東伯郡東郷町引地内に中国の思想家、孔子と孟子の銅像を建設する計画で準備を進めているが、これに関連して基礎工事・台座工事を12日に入札する。県土木格付けC級業者の10社指名で、工期は115日間。

場所は、中国庭園の西角、高さ約1.4m。像は、側にある集粹館の石張り高さ約2.3m、幅0.85m。転倒防止のため銅像と孟子像の2体を並べて建設する。基礎碎石の上の均しコンクリートは2.4m角。台座は1.10m

盛り上げる名所が増えることになる。

山陰 中央 新 報

(平成15年)7月31日(木曜日)

孔子と孟子の銅像設置

東郷湖・松江の会社社長寄贈



燕趙園に設置する孔子像と孟子像

鳥取県は、同県東郷町に中国を代表する思想家孔子と孟子の銅像を、社長から寄贈を受け、近

く台座工事に着手して十月上旬の完成を目指す。園内には「中国の思想家孔子と孟子の銅像」を、社長から寄贈を受け、近

く台座工事に着手して十月上旬の完成を目指す。園内には「中国の思想家孔子と孟子の銅像」を、社長から寄贈を受け、近

く台座工事に着手して十月上旬の完成を目指す。園内には「中国の思想家孔子と孟子の銅像」を、社長から寄贈を受け、近

燕趙園二十八景

鎮
「ソフトボール」館(ホール) 中国代表の選手・中継士の展示をしています。

マルチシアター
演劇団が造られた劇場や本場中国の劇種などをビデオで紹介しています。

天池山
石山の頂に小さな池がある。ここから名がつけられました。石は東北産・高山の産。

湖亭園
湖に浮かぶ亭子のまわりに池が注いでいます。

一川亭
湖のほとりには美しい池があり、全園の景色が一望できます。

荷池
四角の池から眺めると、池は中央に、見頃は7月中旬～8月まで。

七景園
池のほとりにアーケードの影は、七景園の池を映しています。

迎水坊
迎水坊は、池の水を引くための水門です。

三景軒
石の彫刻に、三景園の池、三景園の池、三景園の池の景色が映っています。

四面荷風軒
「荷」は日本語で「蓮」のこと。蓮の葉に風が吹く、まるで水で流れているような風情を感じさせます。

蓮花堂
蓮花の中心となる大蓮池、蓮池の池、蓮池の池、蓮池の池の蓮花が咲き誇ります。

燕趙園と影壁
燕趙園の主要な出入口、影壁の彫刻は、燕趙園の歴史を物語っています。

金山演劇
(朝7時～11時)

高橋子と中国劇の文化、ご入場心算、受付(観劇中心)にお申し出ください。

高橋子と中国劇の文化、ご入場心算、受付(観劇中心)にお申し出ください。

チケット料金について
 1日1回観劇券 ¥1500
 チャイルド ¥900
 観劇券は、観劇当日にのみ有効です。
 大人 ¥1500円 子供 ¥900円



HNS 人間・自然・科学研究所

和而不同



松田秀保書



樵巖窟 松田秀保老師

島根県仁多町 大正12(1923)年生
臨濟宗 南禅寺派
松江市枕木山華藏寺住職

発刊に寄せて

小松昭夫 HNS人間・自然・科学研究所 代表

「恒久平和を生み出す新たな文化の創造をめざして」

ユーラシア大陸の東方に位置し、四季の変化に富む豊かな自然に恵まれた日本列島は、古来より朝鮮半島、中国大陸から伝わった様々な知識や技術を活かし稲作文化を形成しました。

日本は、大陸の律令制度を見習い国家体制を整え、鎮護国家を目指し仏教を導入しました。

9世紀初頭、中国に渡った空海、最澄に代表される留学僧は、インドから玄奘三蔵法師が持ち帰った釈迦の教えと孔孟思想を中心とする中国の思想を融合した学問を日本に持ち帰り、平安京(京都)を中心に、新たな文化を生み出しました。

17世紀にはいると、江戸幕府(東京)は、鎖国政策のもと儒学の普及を促し、世界史上例のない300年に及ぶ平和な時代を築きました。

1853年、アメリカ合衆国の開国要求を契機に、世界的植民地争奪戦に恐怖を受けた日本は、革新的西洋文明を取り入れ、明治維新を経て富国強兵政策による国づくりを行いました。

その後、国内外の劇的変動のなか、多くの国々に歴史的災難を与え、禍根を残したまま今日に至っています。

21世紀初頭、世界は原子兵器やミサイルが拡散する一方、衛星放送やインターネットの爆発的普及に代表される情報技術革命が一段と進みました。

また、アメリカを中心としたグローバリズムの進展は、実質経済と貨幣経済の乖離を生み、バブルと金融危機を発生させ、その結果、極端な経済格差が世界に広まり、思想・文化・文明・民族・国家・宗教・階層・世代間の破滅的な衝突さえも懸念される状況を生み

出しました。そして、2001年9月11日、アメリカの世界貿易センタービルと国防総省が旅客機ハイジャック自爆テロに襲われ、3900余名が亡くなるという悲劇的な事件が起きました。

世界同時不況が懸念されるなか、アメリカ・イギリス連合軍は、関連諸国の賛同を取り付けアフガニスタン空爆を行いました。その後、炭疽菌による心理テロの続発、イスラム系民族に対する抑圧・殺害事件の多発等、人類未踏の困難な時代の到来を予感させます。

日本国内においても、社会指導者層のモラル崩壊が、政治経済はもとより、あらゆる社会システムを崩壊させ、凶悪犯罪の日常化、少子高齢化、自然環境破壊を生み出し、民族・国家存亡の危機を迎えています。この根源的理由は、既得権益層が政治を独占、意図的に司法・教育を弱体化させてきたことと、国民の無関心が引き起こしてきたことです。

サンフランシスコ条約締結50周年、日中国交回復30周年を迎えるこの時期に、日本の歴史教科書記述・首相靖国神社参拝是非をめぐる、国内外で過去例をみない激しい歴史論争がおきました。日本首相は中国・抗日戦争記念館と韓国・西大門刑務所記念館をそれぞれ訪問、反省と謝罪、そして新たな行動をおこすべく内外に宣言しました。

このような状況下、世界で唯一、原爆投下の脅威を語り伝え、50年にわたり戦争放棄・平和憲法を遵守してきた日本は、世界恒久平和創造のため、文化間の対話と協力が生まれる環境を整える役割があると考えます。

1988年ノーベル賞受賞者パリ宣言「人類が21世紀に生存していくには2500年前を振り返り、孔子から知恵を探す必要がある」。1999年孔子生誕2550年記念として北京で開催された「儒学と21世紀の人類社会の平和と発展」シンポジウムにおいて、世界17カ国・地域から約400名が参加、孔子の理念と教えが現在の諸問題解決に知恵を与えることが確認されま

した。このたびの日中英対訳 新版『論語』は、人類共有財産である先人の知恵が世界に広まり、恒久平和につながる新たな行動がはじまることを願って出版するものです。

HNS人間・自然・科学研究所では、1988年「知革塾」創設以来、人類覚醒を目指した新たな文化の創造をはかるべく、「太陽の国IZUMO～地球ユートピアモデル事業構想」発表、シンポジウム開催、「一村一志運動」提唱、治水の偉人「周藤弥兵衛」「清原太兵衛」「大梶七兵衛」を小説・漫画・児童文学の3点セットで出版、諸外国との文化経済交流等、行ってまいりました。

古くからの友人である孔祥林先生の縁により、世界一の石榴産地、また銅像の製作地として知られる中国山東省棗庄市に、このたびの出版にあわせ、孔子・孟子・周藤弥兵衛・清原太兵衛、4体の銅像の製作をお願いしました。

棗庄市台兒庄区は日中戦争激戦地として世界的に知られ、島根・鳥取県の松江63連隊兵士も参戦していました。

ここには、「台兒庄大戦記念館」が中国国民の寄付によって建設されています。

当研究所では、「前事不忘 後事之師」元寇まで戦争の歴史をさかのぼり、日本と関わりがあった国々のすべての戦没者の方に対して慰霊の心を表明する『恒久平和祈念碑』を中海・宍道湖圏に建立し、皇室、政府、国外要人の式典をはじめ、誰でも慰霊・恒久平和への誓いが行える場の創出を提言しています。

隣接地には、世界の戦争・平和記念館と提携、ITを駆使した「映像資料館」と「恒久平和創造のためのデジタル映像製造工場」を建設、定期的に成果発表を行うことで、平和社会創造の道筋を見出し人類にとって最も重要な知的共有財産を構築します。

『用地は国有、施設は民間資金で』を合言葉に具体的な活動をはじめました。

人類の遺産には、社会基盤や科学技術、深遠な知恵だけでなく、人の怨念や恨みといった目に見えない未解決のものも含まれています。半世紀にわたり平和を享受、生かされてきた私達は、双方の遺産を活かし、「和而不同」競争と共生が矛盾なく統合された恒久平和社会創造に邁進する義務と責任があるのではないのでしょうか。

本書を手にしてくださった皆様との出会いに感謝申し上げますとともに、この活動にご参加いただきますようご案内申し上げます。

「世界は進むだけ進んでその間、幾度も闘争が繰り返され、最後に闘争に疲れるときがくるだろう。その時、世界人類の平和を求めて、世界の盟主をあげねばならぬ時が来るに違いない。その世界の盟主は武力や金力ではなく、あらゆる国の歴史を超越したもっとも古く、且つ、尊い土地柄でなければならぬ。世界の文化はアジアに始まって、アジアに帰り、それはアジアの高峰、日本に立ち戻らなければならぬ。我等は神に感謝する。天が我等人類に日本という国を創っておいてくれたことを。」

アルバート・アインシュタイン博士（1922年来日講演）

「あらゆる財産と富は、正義に則し、人類の進歩のために責任を持って使われなければならない。経済的および政治的権力は、支配の道具としてではなく、経済的正義と社会的秩序に役立つように使われなければならない。」「人間の責任に関する世界宣言」第11条（1997年）



105-0001

港区虎ノ門五丁目三十一

虎ノ門40森ビル九階

人間・自然・科学研究所

代表 小松昭夫様

内閣総理大臣官邸
〒100 東京都千代田区永田町二丁目3番1号
電話 (03) 3581-0101 (代表)

人間・自然・科学研究所
代表 小松 昭夫 様

このたびは、日中英対訳「論語」をお送り頂き、
ありがとうございます。この発刊を通じて、恒久平
和を生み出す新たな文化の創造を目指される小
松さんのお気持ちを胸に、大いに活用させて頂き
ます。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

平成14年3月26日

小 泉 純 一 郎

南京大虐殺記念館 元館長朱成山様の東京講演についての報告

魏 亜玲

2016年12月17日

期日 2016年12月15日

時間 18:30～21:00

場所 韓国 YMCA 9階国際ホール（〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2-5-5）

この度、小松社長の随行で朱名誉館長の講演会に参加させて頂くこの貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

朱様は、1992年から昨年10月末まで20数年に渡り、南京大虐殺記念館の館長を努められた後、同館名誉館長に就任されました。このほど、「南京証言集会実行委員会」、「ノーモア南京の会」をはじめ、日中友好団体より招へいされ、12月2日から16日にかけて、全11都市を訪問、11回の講演活動をされました。熊本、長崎、福岡、広島、岡山、京都、大阪、神戸、名古屋、金沢での講演の後、最終回は12月15日、東京韓国YMCA9階国際ホールでの開催で、参加者は約130名でした。

朱様が記念館長として取り組まれた23年間にわたる資料収集から展示までの構築、地方での追悼式開催、国の公式追悼式開催、世界記憶遺産への申請までの歩みについて振り返りながら講演されました。

10回目までの講演では名古屋会場のみ、右翼に抗議され、最終回の東京会場では、右翼十数名が会場の外で抗議活動を行っていましたが、何も抗議されずに講演会が無事に終わりました。

◆朱館長講演会について

朱様の講演の前に、主催者からの挨拶があり、次に南京に健在している被害者2人らからの証言の映像が流れました。

朱様は、用意された90分間の講演が1時間20分間しかなく、平和構築について、まだたくさんの重要な内容は残っているが、残念だと、不満を漏らされましたが、会場は好評の様子でした。

朱様が主に話された内容は次の通りです。



朱成山様講演の様子

・1992年5月から昨年まで23年間記念館で館長として、平和の研究、中日友好のために努力してきた。日本政府の数人の要人、海部、村山、鳩山などの元総理を会見し、日本の各界の方々と幅広く交流した。1994年8月から10数回日本訪問し、たくさんの友達ができ、特に2009年、中国共産党の訪日団メンバーとして日本訪問した際には、当時の麻生総理大臣や公明党の幹部と対話した。



朱成山様講演 会場様子

そして外交部と日本の外務省の要請で、北京で日本右翼の37団体と対話した。日中韓歴史教科書の編纂や歴史研究発表会にも参加した。

・南京大虐殺の歴史については、これまで3つの段階に分けて知識を得た。初めは小さい頃、当時南京大手銀行に勤めていた祖父から話を聞いた時。2回目は80年代、徐さんという友人が自転車で南京を回って被害調査したのち纏めた「南京大虐殺」という本から知った。3回目は記念館に勤務してからの本格的な研究によるものである。

中国国内にある200か所の記念館の中で、唯一館長として長く務めたのが私である。最初は解説員から始まり、その後、国内外の要人訪問に解説した。

・旧日本兵の東史郎から日記の提供を受け、彼の日記を出版した。記載された事件について裁判にまでかけられ、検証実験に協力して証明したが、残念ながら敗訴された。これは唯一の敗訴であった。

・記念館の展示は中国各地、海外巡回展示を主催した。日本で初めて展示したのは名古屋だった。以来、日本で30数回行った。また、日本以外では、デンマーク、ロサンゼロス、イタリアなどでも行った。

・記念館では、最初は、被害者の追悼式は行っていなかった。文化により、良いことは自慢するが、やられたことはあまり人に知らせようとしたくない人が多いからである。

1994年の日本訪問時に、戦後、朝鮮戦争の期間を除いて毎年、広島、長崎で被害者追悼式を行うことを知った。そして海外の他の国、ヨーロッパ、ロシア、アメリカもそうしているのを知り、これらからヒントを得て、帰国後、各方面に呼びかけ、同年12月13日、はじめて追悼式を行うようになった。規模はた

っだ600人だった。テーマは今から考えても良かったと思う。歴史を明記し、平和の大切さと決めた。目的は、民族の恨みを永遠に覚えておくのではなく、それを捨てるために、なぜ戦争が起こったのかという教訓を得るため、平和のために追悼式を行った。これがきっかけとなり、継続的に行うことができ、他の記念館も続いて追悼式を行うようになった。目的はやはり平和の大事さ、真実の重要性を強調するためである。2000～2003年、全国議会で60人ほどの議員が連名して国レベルの追悼式を行う提案が提出された。2014年2月、国の公式追悼式法案が発表され、同年12月13日、記念すべき第一回には、習近平出席参加されるほどの、国家追悼式になった。24回にして悼式は国レベルとなり、今年は3回目となる。

・被害者調査について、中国の人たちは侮辱を受けたことに対して恥だと思い、人に明かしたりするのをしたくないと思う人が多く、南京大虐殺で被害を受けた人、特に慰安婦、化学兵器被害を受けた人は自分の心中に入れておいて語ろうとしなかった。

1997年7月から3か月かけて、17400人が調査に参加した。日本の神戸、熊本、大阪、広島からも、また南京高校生も一緒に調査を行った。2300人を取材し、うち専門家により1200人の健在者が認められた。ほかに常に行う記念館の調査で、4000人ほどの生存者を見つけ、訪問取材した。1994年から21年間にわたって生存者の60人ほどが日本訪問した。日本の友人たちが親切に迎えてくれたことに感謝している。現在、健在者が年を取って年々減少となっており、今、平均年齢85歳、107名となっている。これまで日本を訪問して証言してくれたが、今後は映像や家族からの証言で継続していきたい。

・記念館の展示について

記念館に被害者の足跡ロードーを作った。アメリカの俳優の手形からヒントをもらい、南京市中学校の先生の寄付で作った。展示物は真実ではないといけない、証明できるものが必要となる。世界中を飛び回って探して収集してきた。歴史博物館となっている。大虐殺証明できる歴史的資料は15万点以上、歴史文物は3.5万件を収集した。旧日本軍の東史郎氏の家も3回訪問して取材した。アメリカのイェール大学図書館で、当時のアメリカの伝教師の資料が保管されている資料を見つけた。また、アメリカのポータル銀行勤務の人が当時南京赤十字に勤めていた父親が撮影した16mmフィルムの映像とカメラを寄付した。これは世界記録申請の資料となっている。アメリカ国家法務局で保管された資料も見つかった。また、日本の友人の方にご協力頂き、254名の旧日本兵の証言を収集してもらった。ドイツの図書館で127枚の写真（詳細の情報付：時間、場所、事

件など)を見つけた。

現在の記念館現場の死骸展示コーナーは、被害者集団埋葬の場所の1つだった場所に立てている。その前にいくつかの埋葬場所から骨を掘り出して展示したら、ある日本の右翼が書かれた「大東亜戦争」という本に南京記念館に偽物を展示していると、書かれていたのを1998年4月訪問中に友人から見せてもらった。それまで現場保存意識がなかったことを反省し、帰国後調べたところ、まだ発掘していた埋葬地があると分かり、法医、考古、歴史の専門家を13名集め、三年にかけて調査した結果、8か月、2歳、8歳の子供、70歳老人を含む32体の骨を発見。その現場は現在の記念館の展示コーナーとなっている。

・30万被害者の数字について

名古屋で講演したとき、右翼が「南京の人口が20万人なのに、被害者数が30万人に上るのはおかしい」と質問されたことに対して、「20万人は国際安全区の中に収容された数だけだった。面積も3.86平方キロというのも国際安全区的面積で、南京行政区は476平方キロあったと説明した。

1937年5月、南京の人口と、南京を守る軍人を含む人口が101.6万だった。1937年10月、避難者を除き、南京を守るための11万軍人、上海戦場から逃げてきた人を含む60数十万人がいた。

1946年行った南京裁判では被害者数が30万以上と判決されていた。東京裁判では20万以上、しかし長江に捨てられた死体や、一部の民間個人などが埋めた人数を含めていないとの判決となっていた。こちらの計上されていない数を入れると、南京裁判と同じぐらいとなる。実際、保管した本当の記録では、埋葬数が38万だったが、誤差を考え、少なくとも30万となっている。

・世界記憶遺産へ申請登録について

実際、中国人からのアイデアではなく、フィリピンの文化長官に提案された。その長官が記念館を訪問されたとき、いろいろな資料を視察し、特に米の牧師で、極東軍事裁判で証人として証言したジョン・マギー氏のフィルムを見られたところ、これなら、絶対世界記憶遺産へ登録できると、提案された。申請資料はアメリカやドイツの方々がかつて南京に生活していたとき、取った写真や映像が有力な資料となっている。

申請資料は手元にある現物のみ申請した。ドイツの牧師の日記がコピーなので認められなかった。しかし他の資料は十分に条件に満たしたので、審査委員会

の24名の審査員により審査された結果、世界記憶遺産登録が認められた。発表後、日本政府より抗議され国連への資金を止めると言われたが、国連は事実で判断されるもので、お金で勝負するものではない。

一緒に世界の平和のために頑張っていきましょう。

◆朱館長と小松社長との交流

・経緯

小松社長が南京大虐殺記念館を初めて訪問されたのは、1998年です。大連三高の李様に案内され、三光電業の森脇社長、藤原様と共に訪問されました。その後、2003年と2004年、4、5人のメンバーで訪問された後、2005年9月18日、38名の団体を率いて公式訪問され、被害者に対して追悼式を開催、趣意書を読み、献花されました。追悼式では、朱館長が挨拶され、小松社長一行の訪問を歓迎してくださいました。この訪問は中国の各メディアに注目され、中央テレビ局に数回も報道されました。また、朱館長と深く交流されるきっかけともなりました。翌年（2006年）9月、小松社長は朱館長に平和フォーラムに招待され、そこで平和構想を発表されました。その際、朱館長の紹介で、立命館大学の桂先生と出会い、これはその後の立命館大学国際ミュージアムや名誉館長の安斎先生との交流のきっかけとなっています。その後、2007年12月大虐殺70周年式典と平和フォーラムに再度招待され、同年8月威海で山東省日本学会と政府機関に開催された日中韓都会建設シンポジウムで初めて発表された映像「平和事業化」について南京平和フォーラムで発表。2008年10月、再度30人ほどの団体に訪問されました。それから暫く経った2015年10月、小松社長がニュースで南京大虐殺記念館から申請された世界記録遺産が許可されたことを知り、朱館長にお祝いのメールを送ったところ、2回目国家公式追悼式に招待され、久しぶりに再会されました。そこで、朱館長から夕食会に招待され、「私の十五日」会の漫画家達の作品を南京、北京で展示される手配をされた、作家の石川先生と出会いました。

今回の朱館長の日本訪問を魏が Wechat で見つけ、小松社長に報告したところ、講演スケジュールの確認、15日の最終回の東京会場で、朱館長の講演会に参加するよう指示され、面談が実現しました。そして事前に「対立の文化から共生の文化」の資料を送付し、朱様より中国国内外の関係者の方々に向けご助言頂くように依頼しておきました。各国の関係者協議の上、ハルビンで、日、中、韓、北朝鮮、ロシア、アメリカの六か国の関係者が参加される、安重根についての国際シンポジウムを開催する考えを朱館長に伝えておきました。14日夜、資料を見て頂くことが確認できました。

・当日の交流

講演会の前、朱様は資料を見られたメモを見ながら小松社長と面会されました。講演会後の食事会も同席させて頂き2回にわたって交流されました。

朱名誉館長は小松社長が構想されている平和記念館の建立事業に大変興味を持たれ、喜んで協力しますと、約束してくださいました。また、小松社長が提案されたハルビンの安重根記念館で、日、中、韓、北朝鮮、ロシア、アメリカとの六か国の関係者で、安重根について国際シンポジウムを行うことについても協力すると言っておられました（韓国の情勢に左右される可能性もあるが）。昨年記念館から退職して名誉館長となり、北京で国家国学館（古典）の準員員会の副指揮として勤めておられますが、来年、蘆溝橋事件80周年、第2回上海事件80周年、南京大虐殺80周年、日中国交回復45周年の記念すべき年なので、平和事業に戻りたいとのことで、朱館長が作られた国際平和研究所と日本の自然科学研究所と提携して共同研究することを提案されました。

講演会は、中川十郎先生をはじめ、前原路代様、片山裕美様、野田一夫先生にご紹介された杉本 隆も小松社長に案内され参加されました。懇親会では、中川先生を朱館長に紹介して交流されました。そこで、朱様の年を聞かれた中川先生は「羨ましい、今の私の年齢まで後20年頑張れますね」とのお話しに対して、朱館長は中川先生に励まされて大変喜んでおられました。

また、朱様は、日中歴史についての研究や日本の友人達との交流の中で、日本の文化に対して興味を持たれるようになり、もっと日本の文化を知りたく、近いうち、日本に長く滞在してゆっくり日本の文化を勉強したいと考えられ、広島大学へ客員研究者として半年間滞在計画を進められているとの話もされました。

・朱名誉館長の講演主催側について

講演後の懇親会で今回の主催者側の4名の方々と交流して朱様の講演の経緯が分かりました。

「ノーモア南京の会」という団体をはじめ、日本南京大虐殺60周年全国連絡会、平和を考える市民の会など日中友好の団体が今回の朱館長の訪日を手配されていきました。「南京大虐殺から79カ年 証言を聞く集会」というテーマで、12月2日熊本～12月15日東京まで全国11か所で開催されていました。

東京会場は「ノーモア南京の会・東京」の主催でした。最初に挨拶されたのは代表の田中宏様です。田中様は大学時代に中国文化を専攻され、司会者の甲野信夫様は高校の歴史先生で、中国福建省「寧徳師範学院」で日本語を3年間教

えられたことがあります。世話人、木野村間一郎様も教育関係者です。もう一人、神戸在住の「旅日華僑中日交流促進会」の林伯躍様が朱館長の全行程に付き添いされました。

「ノーモア南京の会・東京」の活動目的は平和友好のため真実を日本の皆に知ってもらおうとしているとのこと。日本は安全の国だと言われていますが、念のために今回の朱館長の訪日15日間では、「ノーモア南京の会」の皆様は朱様の安全を最善に守る体制が取られ、全力を尽くされたことは通訳の朱様と朱館長から聞きました。

※ノーモア南京の会について (webより2000年4月27日更新)

会の目的

1937年12月、中国の首都、南京を占領した日本軍は、この古都を掠奪、放火で破壊し、市民の虐殺、婦女の凌辱など、残虐の限りを尽くした。人類と文明への冒瀆と言われる「南京大虐殺」である。日本の長年にわたる中国侵略、中国人蔑視が引起した事件であった。

侵略戦争の敗北を“終戦”として迎えた日本の社会は、この歴史を隠蔽し続け、被害者の立場から「ノーモア広島」を強調してきたが、このような被害の前に、南京大虐殺を始めとする加害があったという歴史認識に立ち、「ノーモア南京」を訴えることこそが必要である。

「南京大虐殺」60周年にあたり、この過去を心に刻み、中国の人々との和解を求め、相互理解、友好を深めることを目的とする。

・プーチン大統領来日

朱館長が東京講演をされる当日の12月15日は、プーチン大統領が来日され、安倍総理の出身地、山口県長門市で首脳会談をされ、翌日16日、東京の総理官邸で、さらに会談されていました。北方四島の日露両国が特別な制度のもとでの共同経済活動の協議開始に合意したこと、自衛隊と露軍の防衛強化とのことでした。事前の噂では、安倍総理は1895年、日清戦争(甲午戦争)の講話会議が開催された場所を案内したいとのことでしたが、実際では行かれませんでした。

※1895年、日清戦争の講和会議が割烹旅館「春帆楼(しゅんばんろう)」(山口県下関市)の2階大広間で行われた。日本側は、当時の伊藤博文首相らと清国側からの李鴻章らが出席。約1カ月の交渉の末、清国の遼東半島や台湾の割譲などを盛り込んだ講和条約が調印された。

◆朱館長との交流、会場内外の写真



講演会前、一階のホールにて



講演会前、会場外の右翼を背景に



会場外の右翼を背景に



会場外の右翼抗議演説



講演会前、9階会場外のロビーにて



会場の看板



講演後、講演会場建物外
真ん中：朱名誉館長
朱様の左側：旅日華僑中日交流促進会、
神戸と南京をつなぐ会副会長 林様
左から3人目：主催者代表 田中様

講演会後、会場近くにある
テングウというレストランにて
右から前原様、朱様、中川先生、
小松社長、片山様、魏

※朱様講演スケジュール

- ・ 12月2日（金） 夜
熊本県国際友好会館
- ・ 12月3日（土）午後
長崎県教育文化会館
- ・ 12月4日（日）午後
福岡県教育会館
- ・ 12月6日（火）広島
広島市留学生会館（広島市南区西荒神町）
開場 17：00
開始 18：00～
資料代 1000円
留学生・技能実習生・18歳未満は無料
- ・ 12月7日（水）岡山
市内 14時から
参加希望者は 086-201-8844

- ・ 12月8日(木) 京都
ひと・まち交流館 京都(京都市下京区梅湊町)
開場 13:30
開始 14:00~
資料代 1000円(学生等応相談)
連絡先 070-6452-6120

- ・ 12月10日(土) 大阪
PLP会館5階大集会室(大阪市北区天神橋)
開場 13:00
開始 13:30~
参加費:800円 学生:500円
連絡先 080-3822-0404

- ・ 12月11日(日) 神戸
神戸学生青年センター(神戸市灘区山田町3丁目)
開場 18:00 開始 18:30~ 資料代 1000円 学生 500円
連絡先 090-9050-8227

- ・ 12月12日(月) 名古屋
イーブルなごや・ホール(最寄駅:名城線東別院駅)
開場 18:00
開会 18:30~20:45
連絡先 090-6087-8656
資料代 1000円 年収200万円以内の方は無料
連絡先 090-6087-8656

- ・ 12月13日(火) 金沢
石川県教育会館(金沢市香林坊)
開場 17:30
開始 18:00~20:30
連絡先 090-9762-3340
資料代 前売り1000円 当日1200円・学生無料

- ・ 12月15日(木) 東京
韓国YMCA9階 (JR水道橋下車5分)

開場 18:00

開始 18:30~20:30

資料代 1000円

・所感（魏）

今回、貴重な体験をさせて頂き、心から感謝しています。朱館長の講演を聞くのは今回、初めてでしたが、平和のために23年間にわたって一筋に記念館の構築を行ってこられ、世界を飛び回って資料収集され、国家追悼式への昇格や世界記憶遺産への申請等の活動プロセスを振り返りながら、数字や資料、写真などを通しての講話はとっても分かりやすかったです。その内容から朱館長が平和を重視し、日本の平和団体との交流も盛んに行っていることを肌で感じました。講演後の懇親会では、疲れた通訳の代わりに私が通訳の役割を果たすことになり、最後まで朱館長の側に座らせて頂き、朱館長と日本の友好団体の皆様と交流させて頂きました。日本国内でこんなにたくさんの人々が平和のために頑張っておられることを知り、刺激を受け、感動しました。

朱館長は昨年末に退職され、自由な身になられていますし、日本に半年間の滞在希望が実現すれば、社長の平和構想に積極的にご協力頂けるチャンスだと感じました。

◆参考資料

○神戸講演（テープお越し：「オフィス由」より提供）

神戸・南京をむすぶ会

<朱成山氏講演会 テープ起こし>

日時：2016年12月11日（日）午後6時30分～8時30分

会場：神戸学生青年センターホール

主催：神戸・南京をむすぶ会

代表 宮内陽子 副代表 門永秀司、林伯耀 事務局長 飛田雄一

講演会テーマ：「世界の記憶と平和の構築のために努力しようー私はどのようにして南京大虐殺記念館館長を勤めてきたかー」

みなさん、こんばんは。特に今日の集会を準備していただいた主催者の、私をこの神戸に呼んでいただいたことを、心から感謝を述べます。更にお忙しい中、こんなにも沢山の人がお越し頂き、心から感謝いたします。今回は12月2日に上海から福岡に入りました。そして熊本、長崎、福岡、広島、岡山、京都、大阪、そして今日神戸で、

みなさんと交流する機会を得ました。この後は金沢、名古屋、東京に向かいます。

私は昨年南京の記念館の館長を退きました。館長をしている間、神戸の方が沢山私たちの記念館に訪れてくれました。そして古い友人たちに再びまみえて、交流したいと、皆さんにお会いしたいということで神戸に参りました。神戸はそれのみならず、1994年から21年間にわたって、生存者の方々をお招きして、そして証言集会を開いていただきました。毎年神戸から南京に訪れていただきますけれども、特に南京では、その他各地からも実は沢山来るんですけれども、特に神戸のこの代表団の方々は南京では非常に有名です。それは、二つの意味があります。一つはこの名前ですね。「神戸・南京をつなぐ会」ということで、二つの都市を並べて、そして心を刻むということは、中国では非常に新鮮な表現だそうです。それともう一つは、みなさんが参加者の一人ひとりが、うちわを持って、そこに「前事不忘、后事之師」（過去を忘れず、後の世の戒めとする）というものを書いて、それをめいめいが持っているということで、非常にマスコミの写真映りがいいといえますか、そういう意味でおそらくマスコミ、南京で発行される新聞の要旨によく神戸の代表団の写真が映ります。今日、予想だにできなかったことが、神戸で「紫金草のうた」というのを聞くことが出来ました。非常に感動しております。これは、平和と紫金草の花というのを結びつけて、非常に優美なメロディーを今日聞いて、改めて、感慨深いものがあります。⑩1、朱氏の講演の前に神戸・南京をむすぶ会メンバー有志による“紫金草”のうたの披露があった。⑩2、紫金草：南京大虐殺の事件の数ヶ月後(1939年)、旧日本陸軍衛生材料廠の廠長である山口誠太郎さんが現地を視察で訪れた。帝大時代に、中国人留学生と南京に来たことがあり、戦争により大きく変わってしまったことに大変驚いた。そして、南京郊外にたくさん咲いていた紫の花の美しさに感動し、この種子を持ち帰った。その後日本で育て「紫金草」（南京の紫金山の名前をとった）と名付け、育てて増やした種子を知人や近隣の人に分けた。またこの花を広めて平和のシンボルにしたいという息子さんの山口裕氏が「平和の花だいこんを広める会」を組織し、つくば科学万博で100万袋の種を日本はじめ世界からの来場者に配った。現在、日本に「紫金草合唱団」が全国組織で結成され、に⑩友好として中国でも演奏などが行われている。そして紫金草の花壇を創るために1000万円を記念館に寄贈した。

私は92年に記念館の館長になりました。それから昨年退職するまで23年間の館長生活をしております。その間、日本の元首相数人の、村山さんとか海部さん、鳩山さんなどの接待も行いました。私は日本に既に十数回来ておりますけれども、その中でも、2009年、代表団の一員として日本の、東京の四党ですね。自民党の方々と戦略会議を持ちました。その時の首相は麻生太郎だったと思いますけれども。この時の印象は非常に不快です。これは中国国内ですけれども、いわゆる日本の右翼の団体、37団体を、北京に招いて彼らと対談をしたことがあります。非常に印象深いことでした。更には、日・韓・中三か国の、共通の教科書を作ろうというようなシンポジウムを、あるいは、三か国の交流に、平和運動の交流活動にも参加しておりました。

私個人が、南京大虐殺に関係するいきさつには、三つの段階を経ております。まずは、この原体験となるのは、実は私の祖父から聞き及んだことです。当時祖父は南京市内のある銀行に勤めておりました。しかしこの南京に日本軍が入ってくるということで、その時は長江から逃れて市内にはおりませんでした。そしてこのいわゆる南京大虐殺の時期を、最も激しい時が終わって再び銀行に戻って仕事をするわけです。その南京大虐殺の時期から非常に時間が経っているわけですが、その河を、長江を渡るときにまだ沢山の死体が浮いておりました。そして銀行に勤めるわけですが、その銀行の前にも井戸があるわけです。その井戸までも奥までも死体が放置されておりました。こうしたことを私は当時まだ12歳でしたけれども、祖父からいろいろ聞かされました。これが私の南京大虐殺の原体験とも言えるものだと思います。もうひとつは、私は南京生まれなんですけれども、20年間軍隊にいました。その時の同僚のひとりが居たんですけれども、彼は徐さんという方です。彼が休みなどによって南京の町々を自転車で歩いて生存者を探す、そうした活動をしておりました。そして多くの当事者の証言を集めて「南京大虐殺」という、いわゆる報告文学を出した。その中から私は沢山の影響を受けました。シャンスーチンとかリシュインとかそうした人たちの名前も、当時その本から知ったわけです。それと第三段階は、言うまでもなく94年に南京記念館の館長になってからのことです。もちろん館長になるわけですから、その間いろいろな南京大虐殺に関する勉強をしました。資料などをほとんど読みあさるような感じで、沢山の知識を得ることができました。これは、習近平さんが記念館を訪れたときに私が解説員を務めました。当時予定では30分の予定だったんですけれども、習近平さんも興味を持って68の質問をしました。そしてそれに一つひとつ答える中で、結局延長されて72分、長い時間にわたって解説をすることになります。その他、江沢民さんや胡錦濤さんなどの中国の要人たちも沢山記念館を訪れております。その都度私が直接その解説員を買って出ております。

(パソコンの画面を見ながら) この辺は元首相が来られた時の映像です。これは鳩山由紀夫さんが来られたときです。これはアメリカのカーター元大統領です。これはデンマークの女王です。マーガレット二世が来られた時の映像です。これは日本のノーベル文学賞の大江健三郎氏です。この方は台湾の星雲法師という方です。この方については少し説明をさせていただきたいと思います。彼は世界仏教協会の会長でもあります。彼は世界中に100以上のお寺を建てております。彼が出家をするわけですが、その原因が実はこの南京大虐殺と関係しています。彼の父親は一介の労働者だったわけですが、南京大虐殺の中でご苦労されます。そして幼い彼と母親は南京に行って父親の死体を探すわけです。一週間にわたって探したんですけれども結局死体が見つかりませんでした。そしてあきらめて帰るときに長江の側にある栖霞寺(シーシャースー)というお寺があります。そこで彼は出家して僧侶になることに決めたわけです。後ほど彼は台湾に行きます。そしてある機会にアメリカのロサンゼルスに行くわけですが

ども、その時にある画家に頼んで一枚の大きな絵を描いてもらいます。南京大虐殺の情景を描いたものです。その絵には沢山の死体が描かれておりました。それは正に彼の南京の原体験となる幼い時に見た、沢山の死体がずっと彼の中で影響し続けたということです。

これは、私たちの記念館で行われた特別展示会です。東史郎さんに関する展示会です。もう皆さん東史郎さんのことはご存じだと思います。当時日本兵として南京攻略に参加し、そしてその残虐な行為を日記に記すわけです。それが原因で自分で訴えられるわけですけれども、南京の市民たちは、彼が日記に書いたいろんな出来事を、実際に起こった事であるということを、実際の実見で証明したということがありました。これもひとつの特別展示会でした。これもひとつの特別展示会でした。ご覧になってわかるように、南京大虐殺に特化したものではなくて、例えばアウシュビッツであったり、あるいは広島の大原爆であったり、あるいはマニラの大虐殺であったり、そうした世界の民衆の受けた虐殺というテーマで行いました。私たちの南京記念館は、決して南京大虐殺だけを発信するところではありません。それは世界に目を向け、民衆の受難ということを第一に考えた記念館でもあります。そういう意味で、私は南京は決して中国だけのものではないと思っております。それは正に世界に開かれた記念館だというふうに思っております。この展示会は、100万人以上の人たちが累計で参加しております。それ以外にも私たちは記念館から離れて各地で展示会を開いております。これは北京で開かれた展示会の模様です。徐州であったり泉州であったり、こうした記念館であったり、いろいろなところでこうした出張した展示会も行いました。

これは1995年、初めて日本の名古屋で行われた展示会の模様です。その後日本の各地でこうした展示会を行いました。ヨーロッパにも展示に行きました。先ほどのデンマークでの映像です。これはイタリアです。これはモスクワです。アメリカのワシントンあるいはサンフランシスコなどでも展示をしました。今のは南京記念館で行われた犠牲者追悼の式典です。私たちがこの犠牲者の慰霊祭を始めたきっかけ、始めた過程をみなさんに少しお話したいと思います。この慰霊祭を始めたきっかけは、第一回目は1994年に行われたわけですけれども、その年の8月、私は生存者、夏淑琴(シャンスーチン)さんと初めて日本を訪れて証言集会をしました。その時、東京、横浜、名古屋などでしたんですけれども、最後広島にも行きました。その時、実は広島で11万人の人たちが参加する大規模な慰霊祭が行われている。そこには日本首相であったり、参議院・衆議院の議長であったり、名だたる人たちが全員参加をするという、非常に厳かな慰霊祭があると。そしてその数日後には同じ顔ぶれで長崎でも行われている。そして戦後途絶えることなく、それが続けられているということを知りました。非常に驚きました。なぜかと言いますと、実は中国はどの都市でもこうした戦争の犠牲者に対する慰霊祭というものを全く行ったことがなかったんです。なぜこんなに犠牲が多かった中国で犠牲者の慰霊祭が全く開かれなかったのかというのは、中国社会の問題もひとつあります。中国社

会は、常にいわゆる抵抗した歴史、いわゆる英雄物語が主流になるわけです。そして、被害を受ける、あるいは悲惨な目にあうということをあまり公にしたくないという風潮がずっとありました。そうした風潮のために、南京の犠牲者も含めて例えばいわゆる性暴力の慰安婦の方々も含めて、被害者がなかなか自分たちの被害を口にできない。そうした社会的な状況があったのもまた事実です。私は出張より帰ってすぐ担当と協議、中国でも慰霊祭をやるべきだというふうに訴えました。広島は言うまでもなく、ロシアであったり、そしてアメリカであったり、どこの国でも、もちろんポーランドでもあったり、犠牲者を追悼する式典があるのはごくあたりまえの事なんだと。それをしないというのは、民衆の命を軽んじているということになる。ですから中国でも行うべきだというふうに説得したわけです。そしてその1994年の12月、初めての慰霊祭、追悼祭が行われました。当時はまだ非常に規模の小さいものでした。600人しか参加しない、小規模なものです。しかし私はその慰霊祭の主題として、歴史と平和というテーマを掲げました。これが非常に多くの人たちに受け入れられたようです。私たちはその慰霊祭の形式にもこだわりました。例えばその時に合わせて全市で警報を鳴らす、あるいは平和の鐘を鳴らして亡くなった人たちを追悼すると、そういうふうな活動を通じてこうした活動がマスコミによっても受け入れられて、その後各地でこうした追悼活動が行われるようになったわけです。

そして94年から20年間、こうした追悼会が行われました。しかしこの追悼会は地域的なものだったわけです。南京市を中心としたその地域だけの慰霊祭でした。そして2014年ですね、この意味を理解していただいて、そして国会議員にあたる人たちの協力をいただいて国家的な法律ができました。そしてこの南京大虐殺の記念式典を、いわゆる国家公祭、国家の公の行事というふうに定めて遂に21年目にしてこの慰霊祭が国家規模で行われるようになりました。それを記念して本を一冊出版しました。題は「第21回は国家公祭」というようなテーマです。つまりはそれ以前、20回は地方レベルの慰霊祭でした。そして21年目にして国家による公の行事になったわけです。あと3日しますと3回目の国家公祭が南京で行われることでしょう。国家公祭になりますと、観光があるわけですね。先ほど写真にありましたように、北京からわざわざ3軍(陸海空)の儀仗兵が式典に参加するということです。このとき、201年の公祭です。このときには習近平さんも演説をしました。そして皆さんご存じだと思います、南京大虐殺犠牲者の夏淑琴(シャンスーチン)さんと、そして犠牲者のお孫さん、3つの世代にわたってこの公祭に参加しました。ちなみに、夏淑琴(シャンスーチン)さんは今も元気に南京で暮らしております。

(ニュース番組の映像が流れる) これは、国家公祭を報じるニュース番組でした。その中では習近平さんがこの式典に参加して、人類にとって最も平和なのは、平和の暖かみが世界に人々にあまねく照らされることを私たちは願っている。そのためにはこうした歴史の事実を明確に皆さんの記憶の中で留めなければならないというような発言が

ありました。来年は、南京大虐殺から80周年にあたります。中国ではこの80年というのは大きな節目の年になります。規模の大きい行事が行われると思いますので、今日ご来場の皆さんには是非とも南京を訪れていただきたいというふうに願っております。

私たちの館では継続的に生存者の調査を行っております。その中でも1997年に行われた大規模な調査を行いました。大学生、学生を14,000名の学生がこの活動に参加します。その中には日本から来られた26名の大学生、高校生もおられます。神戸から来られた方もおりました。こうした多くの人たちが3ヶ月にわたって調査し、その結果、2300の証言を得ることができました。その後公的な機関によってその2300件が精査されて、最終的には1200人の生存者の証言をまとめることができました。この時の調査は、南京市内の70歳以上の老人をあまねく調査したわけですが、それ以外にも中国の各都市にも生存者がいると聞けば調査に行きました。これは海外にも及んでおります。アメリカにも生存者がいるということで、調査に行ったこともあります。こうした証言者の証言を集めると共に、証言者一人ひとりの思いを形に残したいという事で、こうした記念館に来られた方は見られた事があると思います。証言者の足型を残す、こういうイベントを行いました。これは私が2001年、アメリカのハリウッドに行った時に「ハリウッド・ウォーク・オブ・フェーム」という有名人の足跡を残したところがあるんですけども、それがきっかけになりました。そして中国に帰って江蘇省のいわゆる教員組合に呼びかけて、そして教員によるカンパを集めました。そのカンパを基にこの“受難者の道、証言の道”というのを作ったわけです。これと共に現実まだおられる生存者がみなさん、その当時、南京大虐殺の時に被害を受けて、その後も今日に至るまで非常に生活が困窮している方が非常に多かったわけですね。それを目の当たりにして私は具体的に各界に呼びかけてカンパを集め、そしてその生存者に対して例えば医療費であったり、心を慰めるための活動、そうしたものにその費用を充てることにしました。こうした援助する制度、生存者を援助する制度というのは本来なら日本の政府がやるべきことだと思います。日本政府はこれまで一度たりとも謝ることもなく、そしてこの生存者の人たちに手をさしのべることもありませんでした。現在も南京では、109名の生存者がまだおられます。この生存者についてお話すると、まずもってみなさんに感謝したいと思っています。それは何かと言うと、毎年、20年にわたって生存者の方々を日本にお招きして、証言集会をもちます。その時にみなさんが、日本において非常に丁寧な扱いをうけて、何事も、みなさん高齢ですけれども、この間一度も事故が起こらず平穩に皆さん南京に帰ることができました。これは主催者の方々の、日本の人々の心温まる歓待によってそれが可能になったというふうに思っております。それと同時にみなさんにお話したい点もあります。それは、今年から生存者の方を日本に送り出すことが出来なくなりました。実はおの生存者を日本に送り出すことに関しては、非常に大きな阻害因子があります。もちろん皆さん非常に高齢なために、日本に来るという時にいろんな手続きの問題があります。今、家族の同意が必要になります。そうした事がもうそろ

そろ限界で、日本に行ってあと帰ってこられるかという事を非常に心配するようになって、本当に皆さんには申し訳ないんですけども、今年から生存者を派遣することは出来なくなりました。昨日の大阪でもそうでした。先ほどの神戸の集会でもそうでした。こうしたビデオで生存者の証言を聞くというのも、今後採用し得るひとつのいい方法ではないかというふうに私は感じました。

この南京大虐殺は歴史の事実であります。この事実を明らかにするためにも、たくさんの歴史資料、あるいは現物をもってそれを証明しなければなりません。私たちの記念館では、16万件の資料、あるいは35,000件の文物資料、そうしたものをこの館で収集しました。おそらく中国国内においても世界的においても、非常に資料の豊富な記念館ではないかと自負しております。(パソコンの画面を映しながら) これはその資料集めのために各地を歩いた映像です。東史郎さんの家にも、私は3回行きました。これはアメリカのイエール大学に調査に行ったときです。当時アメリカの牧師が沢山南京におられましたけれども、彼らが残した資料が、実は今イエール大学に集中して保管されております。この左の写真は、ニューヨークのマギー牧師の息子さんの家に調査に行ったときです。もう皆さんご存じだと思います。マギーフィルムという当時の南京の虐殺の状況をじかに撮影した16mmフィルムが残っております。この息子さんがそれを保管しておりました。そして私たちの要請に応じて、フィルムとそして映写機を私たちに寄与してくれました。この資料は後ほど世界記憶遺産を申請する上で、非常に大きな資料として重要な資料としてその役割を果たしたわけです。この方はアメリカのリカスさんという方ですけども、この方の父親も当時、中国の南京に呼ばれました。そして沢山の手紙などを、当時の状況を知らせる手紙などを保管されておりました。この方は、もう皆さんご存じだとも思います。ポトリンという方です。この方は南京の女性、9000人を守ったということで、非常に中国の人々から、南京の人々から感謝されている方です。これはその、娘さんが老人ホームにいるということで訪問しました。そのときの資料も収集することができました。これは2003年にワシントンDCにある資料館の中で、当時BC級裁判の資料などを沢山保存しておりました。それを調査に行ったときのことで、アメリカ以外にも、イギリス、ドイツ、デンマークなどにも調査に行きました。これは日本での調査です。当時の日本兵の日記、あるいは当時の発行された雑誌とかそうしたものを収集することができました。

(画面を変えて) これは98年に記念館で新たな発掘が行われました。何故この時期に行われたかと言いますと、その前の年に日本に訪れた時にある集会で発言したわけですけども、そのとき、聴衆の一人がある一冊の本を持ってこう言いました。その本は「大東亜戦争の総括」という右翼が出した本ですけども、その中には記念館に今展示されている遺骨はにせ物だというふうに書かれておりました。当時私たちも、いわゆるこうした展示の技術が、科学技術というのがあまりなかったために、その発掘した骨を現状のまま保管するのではなくて、それを出して、物によっては洗ったりして展示をし

てしまったわけです。そういう現状保管をしていないという事で、その一点を突かれて、それはにせ物だというふうに言われたわけです。それを聞いたときは、もちろん私は非常に憤りを覚えたわけですが、それでは新たな発掘をしようということで、その記念館の近くにある万人坑を新たに発掘することに決めました。この発掘検証は非常に慎重を期しました。大量の考古学者、そして法医学者を動員しました。そして彼らの専門的な見地で、例えば発掘された骨の頭骨の亀裂あるいは葉の形状、あるいは胸骨の形状などを正確に一つひとつ検証し、それが老人なのか子供なのか、男なのか女なのか、そうしたことを一つひとつ調査しました。その結果、32 の子供の遺骨があるのがわかりました。最年少は僅か8ヶ月でした。そして70以上の老人の遺骨もありました。これは当時、本に書かれた、要するに右翼が“発掘された遺骨は戦闘によって死んだ中国兵の遺骨だ”というふうな暴言を完全に否定し得る結果だというふうに思います。この発掘は、ひとつの池、水たまりの池のようなところで発掘されました。おそらく最初に死体が投げ込まれ、そして土を被せられ、そしてその上にまた死体を棄てて、また土を被せるということで、結局最終的には7層にわたって死体が埋められていたわけです。そのときのその場所での虐殺の資料、あるいは証言が沢山ありました。そうしたものと、この死体、遺骨の形状が完全に一致したわけです。今こうした現物、実際の遺骨が発掘されるわけですが、それに関連して今からこの南京大虐殺の30万人説に対して、いろんな学者がいろんな意見を出しております。なぜ中国で私たちが30万と言うのか、その根拠を今から少しお話ししたいと思います。

まず最初に述べたいのは、私たちは敢えて被害人数を多めにみつুকろうという気も決してありません。もちろんそれはしません。当然それが100人であっても1000人であっても1万人であっても、それは一人ひとりの命でありますし、当事者にとってもそうです。そして残された家族にとってもそうです。その家庭にとってもそうです。そういう被害のひとつの積み重ねだというふうに思っています。もちろん何人であっても虐殺には違いないわけです。しかしその人数の、正確な人数によって、その規模、その虐殺の規模そのものを知るという上ではそれはないがしろにすべきではないというふうに思っています。まず、この30万人ということの数字が、まず最初にこれは法的な定論としてそれが出ているということをもっと皆さんに知っていただきたいと思っています。それでこの二つの裁判、南京での裁判、そして東京での極東軍事裁判を見ていただきたいと思っています。この裁判はどちらも1945年から46年に成されたものであります。右翼は“これは中国の陰謀だと”云々と、この裁判そのものが陰謀だというふうに言いますが、当時はですね、中華人民共和国が成立さえしていない。その前に出た調査と判決なわけです。当時、45年から46年の裁判ですから、当時まだ生存者が沢山おられました。そうした人たちの証言も非常にリアルな証言でありましたし、資料も当然ながら非常にリアルな資料が沢山残っていたということも、非常に重要なことだと思います。それでこの裁判に出た数字、30万また20万、これもまた後で説明させても

らいますけれども、こうした政治が、例えば政治家、例えば当時の毛沢東、蒋介石が30万だと、20万だと言ったわけでもないし、ある学者が20万だと、30万だと言ったわけでももちろんありません。それは法的には、正式な法的な調査、あるいはそうした資料に基づいて挙げた数字であります。それを単に陰謀だということによってそれを否定することは、おそらく100年経っても200年経ってもそれは出来ないことだというふうに思います。この南京の法廷では、非常に綿密な調査が成されました。そして28件の大規模な虐殺があったというふうに認定されました。このときには、その大規模な虐殺では19万の民衆が殺されたと。そして小さな、例えば家庭ある家に押し込んで、日本兵が押し込んで殺したとか、そういう非常に小規模な事件が858件ありました。こうした数字を合わすと、34万の数字になります。当然その間に戦争という混乱の中です。多少の誤差があるだろうということで、30万人以上という判決が成されます。これは決して荒唐な数字ではないわけです。この28件の大規模な虐殺、あるいは858件の小規模な虐殺について、一つひとつについて資料が中国のトウアンカン、日本で言えば資料館ですね。その中に詳細が保存されております。東京の裁判では、このように書かれてあります。20万人以上ということで判決されているということです。しかし注目していただきたいのは、この20万人の中には揚子江に流された死体あるいは埋葬された死体はその中には含まないということが書かれております。当時日本の資料においても15万の死体を埋葬したというような記述があります。そして中国も民間の埋葬した数も含まれます。そうした中で計算するとやはり、その数もやはり34万強になるわけです。それも先ほど言いましたように重複も含めてこの数字が出てくるわけですが、30万余という、30万以上という数字は、実はこの二つの法廷とも同じ数字を提示していることになるわけです。だからある間違った言い方として、南京法廷では30万人と言ってるけれども東京の法廷では20万人と言ってるというふうに誤解されている方がおられますけれども、実はそういう事ではなくて二つの法廷においても、合計すると30万、正に同じ数字がここに出ているわけです。みなさんご存じだと思います。1951年ですね、サンフランシスコ条約が成立します。その中での11条にですね、日本政府はこの南京裁判も含めて連合国の裁判の結果を認め、そしてそれを忠実に施行するということを宣言しております。実は日本政府はとくに、51年には既にそれを明確に認めているわけです。実はこの数字はもうひとつの面からも証明されます。それは、当時南京において沢山の組織が死体収集と死体埋葬を行いました。各組織が行ったその収集と埋葬では、当時それを行った人たちに一定の賃金を払うので台帳を作るわけです。その中にはその死体の詳細も書かれておりますけれども、こうした各団体の数値を合わせると、38万という出でおります。この埋葬記録の中で多少の重複の部分があるということもまた事実です。例えば、長江で流された死体はもちろん下流に流されて行ったわけですね。川の底に沈んだりすると岸に打ち上げられるようなこともありました。そしてこうした収集の団体が、打ち上げられた死体を埋葬するということもあります。と

なるとその死体は重複するわけです。しかし、先ほども言いましたけれども、この埋葬の資料は非常に正確なものでした。それは先ほども言いましたけれども、収集の労働者に対して賃金を払っておりましたので、その収集の時に、その収集した遺体が男なのか女なのかということ、どこで収集したのかということ、どこで埋葬したのかということは詳細に書かれた。そうした記録が、今中国のトウアンカンにあり、保存されております。そういう意味では38万というのは重複も含めると言っても、そんな極端にそれが減るわけではありません。

私たちの記念館の趣旨は歴史博物館であると同時に平和発信の博物館という位置づけをしております。私は平和の船という形付けをしておりますけれども、前半は歴史を象徴します。後半は平和を象徴しております。そういう意味で私は各地で平和に関わる行事にも参加しております。これは2001年、サンフランシスコで行われた世界五大宗教が一同に介して、平和祈念の行ったときです。これはアメリカの9・11以降に行われたもので、その犠牲者そして南京大虐殺の犠牲者、その他の犠牲者も共に弔うという行事でした。そして次はとにかく素敵なお面ですけれども、これまで中国がいわゆる平和学という面がなかったわけですが、私たちが、記念館が日本の立命館大学に、安斉さん、当時は課長が安斉さんでしたけれども、訪れたときに、この平和学という概念を学ぶことができました。そして現在中国ではいくつかの大学で、この平和学という学問が成立するようになっています。

この写真は平和の鐘というものです。これは在日の華僑のみなさんが寄付をしてこの作ることができました。この鐘は先ほど言いましたように、国家公祭、追悼会、あるいはいくつかの平和を願う行事の中で常に鳴らされております。

時間も残り少なくなりました。最後にこの南京大虐殺の発見が世界記憶遺産に登録されたということのいきさつも含めて少しお話しします。これは2015年の10月、私はこの記憶遺産の申請の代表団の一員としてアラブ首長国連邦のアブナビに訪れたときの写真です。実はこの南京案件はユネスコに登録するのは中国人が最初に言ったわけではないのです。実はフィリピンのカモン・パウラさんという、当時文化教育委員会の主席でしたけれども、その方が南京の記念館に来て、そしてそこで保存されているもの、特にそのマギーフィルムがそうでしたけれども、などを見て、これは十分に世界遺産登録の基準に達しているということで、この方がまず最初に提案しました。当初私たちも、南京大虐殺を、アウシュビッツと広島原爆とこの3つを世界文化遺産に登録しようというふうに思っていたんですけれども、その後いろいろな資料的な問題も含めて、やっぱり世界記憶遺産の方が非常に適しているということで、この世界記憶遺産の方に登録することになりました。それでこの申請の中身を少しお話させていただきます。その前にこの記憶遺産の構造と言いますか、について若干お話したんですけれども、それは若干飛ばさせていただきます。この登録した資料を、まずは最も大きかったのは、ジョン・マギー牧師が撮影した16mmフィルム、オリジナルのフィルムです。そしてそのカメラ

と。それがまずひとつ。もうひとつは埋葬記録がかなり完全な形でトウアンカン、資料館に残っております。それがまずひとつ。そしてやはり当時の関東軍が虐殺して埋葬したという資料が残されております。この詳細な資料がひとつ。そうした幾つかの資料、これは興味あると思いますけれども、その資料について申請するわけですけれども、24人いる委員の中で検討の結果、これは全く世界記憶遺産に必要とするところ、それは、真実性であり、世界への意義、そして唯一無二、代替性がないというこの3つの条件に完全に合致しているということで申請が受け付けられます。その後、私たちは慰安婦の問題も申請したわけですけれども、これはいろんな要因もありまして、これは通りませんでした。(ニュース映像を見ながら) 今回の登録したそれぞれが世界遺産の基準に完全に達している、そしてその保存に完璧性という点でも評価されたというふうに書かれております。これは日本政府の対応について報道されております。この登録が政治に利用されていると、その真実性は疑わしいというふうな報道が日本でなされた、日本の政府がそうした意見を出しているということを今(放送の映像で) やっております。

私は日本に来て詳細を知ったのですけれども、この世界遺産の登録に際して日本政府が、負担金を支払わないという決定をしたということを知りました。非常に驚きました。その内容もこの記憶遺産が登録された基準になる真実性、あるいは世界的な意義、あるいは唯一無二の代替性、そうした基準に対する批判ではなく、まずお金をもって圧力をかけるというのは非常に偏狭な狭い対応だと思いますし、非常に滑稽な対応だというふうに私は思います。この登録は決して恨みを昇華させる、そういう目的ではもちろんありません。これは平和のためにこの事実を残していく、それを皆さんの、多くの世界の人々の共通の記憶として残す。そのためのものであるわけです。そうしたものを、日本政府のような曲解をすること、非常に残念に思います。

最後になりますけれども、今日中関係はあまり良くありません。と言うよりもほとんどどん底だと思います。しかし私は希望を持っております。この希望は中日の民間の交流によってそれは希望となるというふうに思います。情勢としては経済においても、今や経済の中心がアジアに移っています。日本、そして韓国、中国もですね、手を携えることによって新たな未来、平和な未来を築くことができる。それは正に民間の力にかかっているというふうに、私は心から思っております。ありがとうございました。

以上

○報道記事

1、人民網日本語版 2016年12月17日 16:16

<http://j.people.com.cn/n3/2016/1217/c94474-9156249.html>

「南京大虐殺の犠牲者は30万人を超える。これは法的な判決であり、歴史の定説であり、変えることはできない」。中国侵略日本軍南京大虐殺遇難同胞記念館の朱成山・元館長は15日に東京で行われた南京大虐殺79周年記念の証言集会で、日本の市民に向けて、歴史的史料の収集に取り組んできた数十年にわたる苦難の経験を語るとともに、詳細で豊富な史料によって日本の右翼勢力の史実の否定をもくろむ言論に力強く反論した。

この集会は日本の市民団体「ノーモア南京の会」が主催したもの。歴史の真相を理解したいと願う東京の市民は極寒の気候にも関わらず仕事帰りのラッシュの中を会場まで足を運んだ。定員100人ほどの会場は満席で、車いすに乗った障害者の姿もあった。

朱さんと南京大虐殺の生存者・夏淑琴さんは1994年、日本の市民団体「銘心会」の招待に応じて訪日し、東京、横浜、広島などを訪れ、南京大虐殺をめぐる講演会や証言集会を行った。その後、日本の市民団体が毎年、生存者を招待し、日本の各地を訪れて現地の市民たちと顔を見合わせての交流を行うようになった。2015年までに60人を超える生存者が訪日し、日本の人々に自らの体験を語り、歴史の真実を伝えた。現在、登録された生存者はわずか107人で、平均年齢は85歳を超える。健康上の理由により、今年の証言集会には生存者を招くことがかなわず、証言ビデオを放映するという手段を取った。

朱さんは集会で、同記念館の館長時代にたびたび海外に行って調査したり証言を聞き取ったりした経験を話した。史料の記載によると、南京大虐殺の発生後、慈善団体が埋葬した遺体は18万5千人、個人が埋葬した遺体は3万5千人、日本軍が損壊して証拠隠滅をはかった遺体が15万人で、各種の埋葬記録の人数を合計すると38万人になる。朱さんは、「大虐殺の犠牲者は30万人を超えることは確実で、『これより多くなることはあっても、少なくなることはない』。より重要なことは、数の問題は南京大虐殺の性質をはかる尺度ではなく、1人でも虐殺すれば必ず責めを負うべきだということだ。だが数の問題は虐殺の規模や程度に関わるため、科学的に、史料に基づいて、实事求是の態度で考証を進めなければならない」と述べた。

日本政府は一貫して、中国侵略日本軍が30万人を超える南京市民を殺害した事実を認めようとしなない。朱さんは、「日本軍が南京で同胞30万人以上を虐殺

したというこの数字は、極東国際軍事裁判と南京軍事法廷で認定されたものだ。日本の右翼勢力はデータを改ざんし、当時の南京の安全区域の面積を南京市全体の面積に置き換え、安全区域の人口を南京市の人口とし、概念をすり替えることによって、人に言えないような目的を達成しようともくろんでいる」と述べた。

朱さんは、「昨年退職してから、世界に向けて南京大虐殺の歴史の真相を語るのをライフワークとしている。今年12月以降、まず大阪、神戸、名古屋などで11回の講演会を行い、どの集まりにも現地の人々が多数参加してくれた。日本社会はさまざまな面で構成されており、歴史を否定し抹殺しようとする右翼勢力も確かに存在するが、歴史を認め、歴史に耳を傾けてともに教訓をくみ取りたいと考える日本人も非常にたくさんいる」と述べた。

集会を企画した甲野信夫さんは、「多くの日本人が真実の歴史を伝えようと努力している」と述べた。以前、高校の社会科教諭をしていた甲野さんは歴史的史料を収集する中で、当時の普通の日本人が軍隊に入り、ひとたび戦場に足を踏み入れると、たちまち悪魔に姿を変え、無惨で非人道的な殺戮行為を行うということに気づいた。だが多くの日本人はこうした状況を知らない。そこで甲野さんは「南京大虐殺証言集会」をたびたび開催し、日本の人々に歴史の真相を理解してもらいたいと考えるようになった。歴史を心に刻むのは二度と戦争を起こさないためだという。

朱さんは日本の安倍晋三首相が米国ハワイの真珠湾を訪問することについて、「第二次世界大戦でアジアでの起点となった戦場は真珠湾ではない。日本軍は1931年に中国東北地域を侵略し、1937年には盧溝橋事件を起こして全面的な中国侵略をスタートさせた。安倍首相はハワイに行って『政治ショー』をするのではなく、南京に来て謝罪をするべきだ」との見方を示した。（編集 KS）

「人民網日本語版」2016年12月17日

2、産経新聞 WEB 版記事 2016.12.16 13:17

<http://www.sankei.com/life/news/161216/lif1612160031-n1.html>

テーマ：「南京大虐殺記念館」名誉館長が来日 講演で「世界記憶遺産登録を勧めたのはフィリピンの閣僚」と主張

「南京大虐殺記念館」名誉館長の朱成山氏が来日し、15日夜、東京都千代田区の在日本韓国YMCA国際ホールで講演した。犠牲者数や存否をめぐる議論がある「南京事件」について、朱氏は「30万人という被害者の数は歴史的事実。国際法廷で出た結論だ」と述べ、「30万人以上になるのは確実だ」と主張した。国連教育科学文化機関（ユネスコ）記憶遺産に中国の「南京大虐殺文書」が登録された問題では、「われわれのアイデアではない。勧めてくれたのはフィリピンの閣僚だ」と経緯を明かした。（WEB編集チーム 三枝玄太郎）

講演は、12月南京証言集会実行委員会の招きで、2日に来日。西日本から順次、十数カ所を講演した。

朱氏は2011年まで20年近く、中国・南京にある「南京大虐殺記念館」の館長だった。産経新聞が同記念館に展示していた3点の写真の信用性が乏しいと指摘し、写真3点を取りやめたと報じた際も「写真は1枚も変更していない。産経新聞は意図的に事実を歪曲した」と「厳重な抗議」を表明した人物だ。

朱氏は「中国が建国される（1949年）より前に国際法廷で認定された数字だ」とし、南京の戦犯法廷で、川や川周辺の虐殺が28件19万人、それ以外に858件15万人が認定されていることから34万人になると持論を展開。ただし、これらの統計に「重複はあると思う」とも述べた。

「南京事件」については、1937年、当時の中華民国の首都・南京を占領した日本軍が約6週間から2カ月間にわたって多数の敗残兵や住民らを殺害したとされているが、いまだに犠牲者数や存否をめぐる議論がある。中国側が「30万人以上」と主張する犠牲者数については日本国内では支持する有識者はほとんどいないものの、中国側の取り組みで国際的には「30万人説」が一人歩きしている側面がある。

朱氏はこの日の講演で、「名古屋で講演したとき、右翼が『南京の人口が20万人なのに、被害者数が30万人に上るのはおかしい』と質問した」エピソードを紹介し、1937年5月時点で南京の人口は101万人余りだったと主張。「20万人は国際安全区の中に収容された数だ」と反論した。面積も3・86平方キロというのは国際安全区の面積で、南京行政区は476平方キロあったと説明した。

世界記憶遺産に中国の「南京大虐殺文書」が昨年登録されたことについては、フィリピンの閣僚の名前を挙げ、「(米の牧師で極東軍事裁判で証人として証言した) ジョン・マギー氏のフィルムを見た際、『これは記憶遺産になりますよ』と勧められた」と述べた。

マギー・フィルムとは、南京事件の犠牲者を撮影したとする16ミリフィルム。多くの遺体が映っているが、戦闘で死んだものなのか虐殺されたものなのかは分かっていない。フィルムは極東軍事裁判に証拠としては提出されていない。

最後に朱氏が「世界平和のため、一緒にがんばっていきましょう」と呼びかけると、会場の約150人から拍手がわき起こった。

一方、在日本韓国YMCA国際ホールの外では、右派系の市民団体が「南京大虐殺の集会がこちらであるそうです、それよりも(日中戦争の発端となった盧溝橋事件の直後、北京郊外で日本人200人以上が中国人部隊に殺害された)通州事件を取り上げたかどうか」「日本ヘイトをやめろ」などと抗議する姿もあった。

会場では、こうした団体が朱氏に質問することを呼びかけていたためか、質疑応答はなく、報道関係者以外の参加者が会場を撮影すると、スタッフが「つまみ出すぞ」「誰の許可を得てやっているんだ」と声を荒らげる場面もあった。

<完>

3、人民日報記事 2016年12月14日

<http://blogs.yahoo.co.jp/oomihuji/18901786.html>

[人民網日本語版](#) 2016年12月14日 13:49

現在の日本人は南京大虐殺の歴史をどう受けとめているのか？ 筆者は中国侵略日本軍南京大虐殺遭難同胞記念館の元館長として、南京大虐殺の歴史、中日関係、平和学の研究に20年余り携わっており、日本平和友好団体の招待を受けて2日から16日まで、日本の熊本、長崎、福岡、広島、岡山、大阪、神戸、名古屋、金沢、東京を訪問している。各地で日本社会各界の人と幅広く交流し、南京大虐殺の歴史について11回講演し、南京大虐殺の歴史についての日本人の様々な態度を自ら感じた。(文：朱成山・中国侵略日本軍南京大虐殺遭難同胞記念館元館長)

日本中国友好協会、日中協会など中日友好組織の日本各地の支部、日本南京

大虐殺 60 周年全国連絡会、平和を考える日本市民の会など多くの民間組織は、南京大虐殺の真相を広め、交流するべく長年熱心に努力してきた。1994 年から、21 年続けて南京大虐殺の生存者を招いて日本各地で証言集会を開き、南京大虐殺被害の史実を語り、中国侵略日本軍の残虐行為を告発してきた。南京大虐殺の生存者はすでに高齢なため、今年は初めて南京大虐殺の生存者を日本に招かなかった。だが京都、大阪、神戸などの平和友好組織は、生存者である夏瑞栄さん、侯占清さんらの証言映像を放映した。京都の証言会では日本の青年がピアノで「和平頌」を演奏した。神戸では参加者が「紫金草、和平的花」を歌った。歴史と平和を緊密に結びつけて考え、伝えている日本人は少なくない。

だが南京大虐殺の歴史に無関心な日本人も少なくない。長崎の中学校の女性教師、奥山忍さんによると、右翼勢力が編纂した「大東亜戦争の総括」を読んだために、南京大虐殺が起きたことを信じない生徒がいるという。こうした日本の青年の状況を、良識ある日本人は深く憂慮している。

南京大虐殺の歴史に対する現在の日本人の心理は矛盾しており、複雑だ。産経新聞の 10 月 15 日の報道によると、日本政府は南京大虐殺の記憶遺産申請成功に不満を表明し、国連教育科学文化機関に改めて抗議した。中国が南京大虐殺犠牲者国家追悼式を行うことに対して、理解と賛同を示す日本人もいれば、反日行動だと考える日本人もいる。日本各地の民間組織が次々と南京大虐殺の歴史の証言会を開催し、南京大虐殺の歴史映像を放映しているのと比べ、この歴史に対して日本の政府やメディアは集団で沈黙している。

日本で筆者は、大変懸念される新たな動向も感じた。一部の日本人は侵略戦争や南京大虐殺などの加害の歴史を認めないうえ、第 2 次大戦時の被害の歴史も取り上げようとせず、さらには自分の子どもに広島と長崎の原爆資料館を見学させようとしめない。彼らは戦後の歴史に注目することに熱心で、世界の平和に対する日本の貢献を喧伝する。様々な偏った教育的動機に、隣国は警戒し、懸念せざるを得ない。(編集 NA) 「人民網日本語版」2016 年 12 月 14 日

3、立命館大学 HP より

http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/news/16/161209/news_161209.html

朱館長が立命館大学訪問について

12 月 9 日(金)、中国の侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館の朱成山名誉館長が来館されました。常設展や特別展「絵葉書にみる日本と中国：1894-1945」を見学された後、国際平和ミュージアムのカセム館長、田中副館長、国際関係学部の君島学部長（日本平和学会会長）と懇談されました。

同記念館は、2003年12月国際平和ミュージアムと協力協定を締結しており、2004年に立命館で開催したアジアの平和博物館会議に朱成山館長（当時）が参加。その後安齋名誉館長が中国を訪れ、朱成山館長が主催する南京の国際会議でシンポジストを務めるなど、当館とも深い関わりがあります。

現在中国では200もの戦争博物館があり、博物館発信による平和学の概念も広まりつつあることを背景に、学術研究交流（シンポジウム等）や博物館資料貸借など、両館の今後の連携・協力や中国国内の博物館と当館が交流をはかっていく可能性について懇談がされました。12月1日、国際平和ミュージアムに平和教育研究センターが設置されましたので、そこを拠点に国内外の博物館や研究機関と連携したグローバルな学術交流の促進について検討がされることとなります。

<完>

以上です。

安重根義士殉国 104 周年追悼及び 国際交流会晩餐会の挨拶

人間自然科学研究所理事長
小松昭夫

皆様こんばんは。

今日、安重根義士殉国 104 周年を迎える記念すべく場所にご招待いただきありがとうございました。ご招待いただきました、安應模理事長はじめ、関係者の皆様、そして、ご臨席いただきました皆様に感謝を申し上げます。

私は、安義士について、ここにいらっしゃる皆様ほどは勉強が出来ていないと思いますが、私なりに彼について色々と研究をしてまいりました。

私は、安重根義士は、民族の英雄だけに止まらず人類の英雄にするべきだと思います。（拍手）

今日、韓国の朴槿恵大統領がオランダのハーグに世界核安保会議に参加されています。

ハーグは、李準烈士が 100 余年前、万国会議場で 世界列強に向けて、朝鮮の独立国であることを知らせようとしたの都市です。しかし、彼のその願望が叶わなく、泊まったホテルで死体で見つかりました。その現場に李準記念官が出来ている、韓国においては、辛い時代の歴史の現場という、意味ある場所であると認識しています。

私は、2 年前、ハーグの李儻記念館を訪問したことがあります。

その場所でも安重根義士を世界に知らせるようにならなければならないと思い、安重根義士崇慕会の安理事長のご協力とご了解、また原本の所持者の方の了解を得て、安重根義士の遺墨『独立』の書のレプリカをハーグの李儻記念館にお渡しし、現在も展示されています。（拍手）

また、先月は中国のハルビン駅内の安重根記念館も訪問してきました。

そこを見に来たたくさんの人を見て、安重根義士は、ますます世界の英雄とされて行くことを確信しました。

安重根義士は、獄中で 未完成傑作『東洋平和論』を残しました。

当時は、今のような交通手段がなかったので、もっと広い世界を見て歩くのはそう簡単ではない時代でありました。おそらく彼は『世界平和』をイメージして『東洋平和論』を書いたのではないかと思います。（拍手）

最近のウクライナのクリミア半島の動きや、北朝鮮のミサイル発射など、今世界はとっても混迷をしています。

しかし、夜が開ける前が一番暗いという話がありますように、今の時代は、人類の明るい未来が開く直前であると認識しています。それは、このような混乱をどのように活かしていくかによるものでしょう。

これまで 25 年あまり、人間自然科学研究所を通じて、いろんな活動をしてきましたが、私ももうすぐで古希を迎えるようになります。

もうそろそろ、今までの活動の花を咲かせ、実るようにならなければならない時期がきていると思いますので、皆様の応援とご協力をよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

2014.03.26

感想：金美正

短い挨拶の中に、安義士に対する限りない尊敬の表明、安義士はひとつの民族の英雄ではなく、人類の英雄という表現を日本人の小松社長から聞かされて、参席者の皆様はとても嬉しかったと思います。そこで烈々拍手と歓声がありました。

ハーグの『独立』の書の寄贈、ハルビン駅の記念館訪問を通じた実際の行動を聞いて、彼を本当の世界の英雄と知っていることが証明出来、これまで小松社長の活動を良く知らなかった人にも強い認識が出来たと思います。

100 年前と現時代の違いから見る安義士の東洋平和論の再評価の発言についても、大きな感銘を受けていると思いました。

人間的には、70 歳の古希を迎えるに当たっての気持ちを、淡々と述べましたので、これまでの活動が人類史における使命感を持って、真摯に果たそうとする気持ちで行って来たことを共感してもらえたのではないのでしょうか？

通訳が終わって席に戻ったら、回りの方から社長の挨拶に「とっても感銘を受けた」というお礼をたくさん貰いました。

素晴らしいスピーチ、韓国人として感謝申し上げます。ありがとうございました。

朝鮮半島と日本列島の使命より

晩餐会にて



遺家族と一緒に写真（前右：安義士の孫娘、後ろの左4番目曾孫さん）

式典の様子



朝鮮半島と日本列島の使命

— 3大核大国の結節点から和の時代が始まる —

2011年2月22日 初版

人間自然科学研究所ホームページから
ダウンロードしてご覧いただけます。

<http://www.hns.gr.jp/e-books/index.html>

日本大使館前、ベルタ・フォン・ズットナーと少女像が並ぶ

小松昭夫 人間自然科学研究所理事長

2015年5月11日(月)

小林泰久

はじめに

小松電機産業株式会社、人間自然科学研究所は人類の「和文化」が始まるために、1994年の研究所設立より、平和、環境、健康に携わる事業を続けている。特に、韓国独立記念館、安重根義士記念館、中国南京記念館、抗日戦争記念館、露国、米国、欧州の、国民の誇りを担う重要な機関に、日本人代表として小松昭夫理事長が献花寄付を行い、国家のトップとも話し合いができるプラットフォームづくりを行い、2013年には「世界の平和事業家20人」に選ばれ、ハーグ市庁舎で展示を受けた。

こうした背景をもとに昨年11月23日、松江市の「くにびきメッセ」にて600人が集まり、「八雲立つ出雲から陽が昇る」を開催。カーネギー財団が発注した女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナー像を制作し、その後小松理事長の発注で2号像、3号像を制作した、イングリッド・ロレマ氏を招き、3号像の披露とともに、今後の鑄造については「小松氏に任せます」との承諾を受けた。

一方、人間自然科学研究所は2013年に、島根県議会の意見書決議を受けて「お礼」を伝えるために訪日した、元慰安婦の李容洙(イヨンス)さんの来県を「未来に生かす」という視点で、県議会議長が面会を拒否するなか受け入れた。

この経緯のなか、在韓日本大使館前にある、日本大使館をみつめる少女像、また米国内各地である少女像や慰安婦の碑に、対立点を明確にした意義を見出し、これが次々とズットナー像に変わり、対立統合発展の象徴となり、人類発展を示す具象となることを提唱した。

いま、19世紀末から20世紀初頭に掛けて、明治維新と殖産興業によってアジアで最初に産業革命を起こし、西欧からアジアへ産業を広げる発端となった日本の産業遺構の世界産業遺産暫定リストへの登録と、「慰安婦」をユネスコ世界記録遺産にするよう韓国、中国、朝鮮、オランダ、台湾、フィリピンが共同で登録実現に向かい始めた、この対立点を生かし、天の時を得て、在韓日本大使館前にある少女像の前で、ベルタ・フォン・ズットナーのパネルを据え、記録に残した。ここに至るまでは、小松電機産業が韓国に置くKOMATSUKOREAのメンバーとの議論、それを受けた代表者としての判断と行動がある。

月面着陸を果たしたニール・アームストロング船長の言葉。

「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」

協議

小松昭夫

小松電機産業代表取締役、コマツコリア代表理事、人間自然科学研究所理事長

金頭哲顧問

尹熙竣コマツコリア代表理事

金美正理事

小林泰久(小松電機産業情報システム部)

場所 ソウル市内ホテル

平成 27 年 5 月 11 日夜、金顧問、尹代表理事、金理事、社長と5人で展示会会場に近く花火が見えるホテルのロビーで約3時間半のミーティングを行いました。

社長がズットナーパネルを持って慰安婦像の前で写真を撮るのがなぜ今のタイミングですかと尹さんが質問したところ、小松社長より「外燃機関によって蒸気機関が生まれ、繊維産業が始まった。これが第一次産業革命。第二次産業革命は内燃機関の誕生。明治維新により日本に殖産興業というかたちで導入され、これが西欧から始まった産業革命がアジアに広がる出発点となった。第三次はミッドウェー海戦に見られる情報革命で米国から始まっている。そしていま第四次産業革命が始まった。アジアで初めて産業革命を成し遂げたということでイコモスがそれに関係する施設を世界遺産に推薦した。普通は、世界遺産だったら1カ所だが、日本全国で分散している。国家としてとらえてイコモスが人類に重要な遺跡物だということで推薦した」と話がありました。

参考サイト

<http://www.fnn-news.com/news/headlines/articles/CONN00291746.html>

「韓国人は小松理事長を友好的な日本人の一人だと思っているのに、慰安婦像の前でズットナー像のパネルを持って写真を撮るのは立場上、やめたほうがいい」と金顧問より助言がありました。小松理事長は「皇族の子供の名前と猿の名前を一緒にしたこと」、「世界遺産にする強制労働や慰安婦の方の問題や強制労働の問題」など、そこ

にある対立を引き込む、など例を持って話をされた。

「ズットナーと慰安婦の関係についてだれもが共感できるかどうか」と尹さんが話し、「共感をする前に議論をする必要がある。そのためのステージと考えている」と小松理事長が答えた。

金顧問が「なんで日本大使館の前にある少女の像のところでズットナーのパネルを出す必要があるんですか。もし韓国の人がそんなことしたら大事ですよ。私は韓国で活動している理事長のことを思って止めています。だからもう少し考えてください」と再度助言したところ、「ズットナー像と慰安婦像のつながりが分からない、しかし共通していることは銅像ということだけ、そして今のままではいけないということだけ、それ以外はやってみないとわからない」と小松社長が答えました。

「日本は歴史のあったことを話さない。悪い事も良い事も歴史、良い事は言うけども悪い事は言わない、そこが問題になって現状がある。韓国で私が紹介した人たちは、小松理事長が10万円の資金と5万円の車で小松常務と2人でポンプ修理から始めたことはみんな知っている。そして世界の事業者はみんなそういった事が大事だということ、模範となると言ってきている。私は小松理事長のためを思っています。だからもう少し深刻に捉え真剣に考えてください。日本が悪いとは私もあまり言っていない、両国がお互いに話し合いながらやらないといけないという事をいつも話しています。門番が韓国で販売されてこれまで約23年たち、今後これをより多く販売していくのに大使館の前に行って写真をとるなどそういったパフォーマンスをすることはもう少し考えてください」と金顧問より再度助言をされた。

それに対し小松理事長は、「一晩考えて結論を出します。私は物事を0.1秒前まで考える」と答えた。

金美正さんが「社長がなかなか判断してくれないから夜も寝れなかったけど、今夜考えてくださるときいて良かった」と言われいったん場が和んだ。

また小松社長は「共感のステージを作ってわざと対立を作り、統合発展にもっていくことを経営という」と話され、現在、富山県の高岡で制作している日本製ズットナー胸像をまずは確認して、できればその日に島根に移動させる。そのあとANAに依頼してヨーロッパにズットナーを運ぶ」と話された。

「小説『悠久の川』で、意宇川とライン川が繋がった。それと同じようにズットナーと慰安婦像が繋がった。それはイヨンスさんが島根に来なかったら繋がっていなかった」と小松社長。金美正さんは「繋がってしまったことに対し、だれも文句はいえないけど、まわりがそれは無理ですやめた方が良いでしょうと言った場合は考えて頂きたい。韓国の人の中では、大使館の前に少女の像を置く事に対して、なぜそんな像をわざわざ大使

館の前に置く必要があるかと言う人もいる」話をされ、顧問も同意された。

「今度、日本大使館は場所を変える、すでに業者も決まっています、近くのビルの3～4フロアを改装して移動することが決まっています。慰安婦像が出来たのはいいことだと思う、経営も一緒に始めることは簡単、続けることは大変、そして辞めるときはもっと大変なんです。銅像も一緒に、これをいつまで、どうするのか、出口がむずかしい。出口を考えてから入らないといけない」と小松社長は、経営に関する考えとあわせて話をされた。

金美正さんはそれに対し、「銅像の前で写真を撮る事は普段みんなやっていることなのでいいですが、その写真を撮った後にどのように使うかによってこれからのKOMATSU KOREAの活動にも大きく影響してくることなので十分に考えて行動していただきたい」と再度話をされ、「わかりました、一晩考えてから決断します」と小松社長が話され、夜のミーティングを終えた。

翌日 11 日の朝から金美正さんに来ていただき現地に送っていただき日本大使館前にある慰安婦像の前に行き写真を撮りました。撮影には 11 月 23 日のイベント時に作成した等身大パネルを持参しました。

送っていただいた時には、徴兵制で警察の機動隊に配属された方の他に一般の方も多くいました。私は撮影が終わるまで緊張し等身大パネルを車に忘れていき、社長と二人で慰安婦像前までいき指摘され車に戻りパネルを箱に入れた状態で持って行きました。

像の近くで開梱し撮影をする準備をしていると機動隊員がやってきましたが韓国語で話しかけられたが、「日本語の分かる方を呼んでください」と日本語で返すと3人目に日本語が話せる警官がやってきました。

「何をされようとしていますか？」と機動隊員から質問され、社長より「ズットナー像と一緒に慰安婦像と写真を撮りたい」と話をされ、11月23日のシンポジウムパンフレットに書かれたズットナーの紹介文を機動隊員にズットナーの説明をされると、日本語のできる機動隊員が最初に来た2名の機動隊員に通訳されました。

また、朝鮮半島と日本列島の使命に書かれている安重根義士の孫・曾孫と社長が写っている写真と、会社案内に掲載する独立記念間訪問の写真を見せ、撮影の許可をいただきました。

しかし撮影した後に、インターネットなど公共の媒体に掲載することはやめてくださいと

言われました。



まず、ズットナー像の等身大パネルを慰安婦像の横に置き一礼をし、慰安婦像の後ろに貼られていた安重根義士の写真にも一礼をしました。



それぞれへ一礼をすませてから慰安婦像とズットナー像を並べて記念撮影を行いました。その際に、回りに機動隊員が6人くらい待機している状態でした。



3人目の日本語が話せる機動隊員に、朝鮮半島と日本列島の使命、ズットナー冊子、会社案内、シンポジウムパンフレットをそれぞれ2冊と社長の名刺を渡しました。



5月11日の写真の使用許可に至るまでのプロセス

文責：小松コリア 尹熙竣

2015年6月3日（水）

9時ごろ、小松社長から電話があり、5月11日に駐韓日本大使館・慰安婦像の前でとった写真の中に、社長と握手していた警備隊員の写真などを14分程度の活動あゆみ映像に使いたいので、その方・部隊に意見・確認をとってほしいとの指示がありました。すでに研究所のHPにアップしているので確認してほしいとのことでした。

直ちに本社の小林さんに連絡をし、その当時とった写真をすべてマネージから頂きました。研究所のHPにアップしている映像も確認しました。午前中、小松コリアの取り急ぎ業務を済まし、午後から対応を取りました。

13:40

まず、ソウル地方警察庁に連絡し伺うと、当日にどの部隊が警備したのかもわからないし、わかったとしても保安上教えるのが難しいと言われました。

13:50

ネットで検索し、ソウル地方警察庁機動隊のホームページを見つけましたが、部隊名がわからないと教えてくれないと思って、当日の写真をもう一度詳細に観察してみると、小松社長がズットナー像のパネルと慰安婦像に一礼する写真の中に、機動隊バースがあり、その裏側に小さく部隊名が書かれていることを確認することが出来ました。ソウル地方警察庁 32 機動部隊

14:00

ソウル地方警察庁機動隊に電話し、これまでの流れを話しすると、32 機動部隊に繋いでくれました。

<対応者：李・ソボウ巡視>

小松社長の紹介と、当日の流れ、そして現在その写真の使い方について相談したところ、

- ①そもそもその場にいる機動隊員は民間人と写真をとってはいけない。小松さんが写真をとろうとしたときに彼らは避けないとはいけなかった。
- ②当部隊名を写真の中で確認したと言うが、皆さんが部隊のバースをとってもいけないが、その写真を撮れたのも機動隊に過ちがある。
- ③よって、日本大使館やその周辺の写真を使うのは何とも言えないが、当機動隊員とバースが写されている写真を使用するのはやめてほしい。

ここで、尹が光復70周年ソウル記念事業市民委員会の話しと安重根記念館との関係などをもう少し具体的に話すると、李巡視より、それでは具体的な団体名と活動内容がわかるものがあるのかと言われ、詳細はメールで送信すると返しました。

14:25

32 機動部隊に以下のメールを送りました。

ソウル地方警察庁 32 機動部隊
李・ソボウ巡視様

こんにちは。

本日は、お忙しい業務時間の中、時間をとって頂きましてありがとうございました。
私は、先ほど写真の件で電話しました（株）小松コリアの尹熙竣と申します。

電話上で簡単に申し上げましたが、本日は日本島根県出身の事業家であり、平和活動家の小松昭夫氏のお願いを受け、メールをさせていただきます。

財団法人人間自然科学研究所 理事長 <http://www.hns.gr.jp/index.html>

韓国独立記念館に日本人としては初めて喧嘩と寄付をすることができた方で、安重根記念館とも深い関わりがあり、去年は慰安婦の方を日本島根県にお招きし講演会を開催するなど、韓国とも多くの縁をお持ちの方です。
詳細は研究所ホームページから確認することができます。

今年、安重根記念館のご推薦により、ソウル市が主催する“光復70周年ソウル市記念事業市民委員会”30人の中に唯一日本人として選定され、その委員会のため、毎月わざと時間をとって私費で訪韓中でありました。

その中、5月訪韓中（5月11日10時ごろ）会社の部下1名と共に、駐韓日本大使館の前にいる慰安婦少女像と安重根義士写真の前で一礼をし、現在、本人が平和事業の一環として進めているオーストラリア出身の反戦小説家であるベルタ・フォン・ズットナー（女性で初めてノーベル平和賞を受賞）の像のパネルを慰安婦像の隣に置き、写真を取ろうとする準備をしていると機動隊員がやってきましたが、韓国語で話しかけられたので、「日本語の分かる方を呼んでください」と日本語で返すと、日本語が話せる機動隊員がやってきたと言われました。

本人より、ズットナー像と一緒に慰安婦像と写真を撮りたいことをお伝え、ズットナー

の紹介文やお持ちの小冊子などをお渡しし、写真を見せながら具体的な話をすると、それを受け仲間と協議し、撮影の許可を頂いたと言われました。

小松氏と握手する写真などは、インターネットなど公共の媒体に掲載することはやめてくださいと言われました。

日本に戻り、これまでの活動あゆみ映像を作っている中、これからの流れを考えてもその当時の写真をお使いできればと思ったみたいです。

その当時、優しくご対応して頂いた機動隊員の皆さんにはご迷惑をお掛けしない気持ちですが、平和事業活動を共にする関係者との交流や提案活動などに添付し、使用できることが可能か、ご確認をお願いしたいයි。

改めて、お忙しい時間を頂きましてありがとうございました。

ご確認とご返信メールをよろしく申し上げます。

ありがとうございました。

上記もメールと共に以下の写真を添付しました。



17:10

32 機動部隊より、以下のメールを送りました。

こんにちは。

ソウル警察庁 32 機動部隊 行政チーム長 金・ヒジョンと申します。

送っていただいたメールと写真は確認しました。

内容を読む限り、非常に大切なお仕事をされている方だと考えました。

しかし、念のために以下の内容を送ります。

写真の中に登場する警察官・機動隊員と小松昭夫氏が一緒にいる写真により、その警察官・機動隊員又は韓国政府が小松昭夫氏の活動を支援又は擁護すると誤解を招くのは避けたいところです。

その部分は敏感な部分であるため、写真のせいで、誤伝されてはならないようにしてください。お使いの際には、

一どのようにお使いしたいのか

一もし、こちらから削除の要請があった場合は直ちに削除しないといけません。

立場上、貴様の良い意図とは反する消極的なメールになったからかもしれませんが、平和活動も含め、小松氏と（株）小松コリアの更なる発展をお祈りいたします。一金・ヒジョン

17:25

32 機動部隊に以下のメールを送りました。

ソウル地方警察庁 32 機動部隊 行政チーム

金・ヒジョンチーム長様

こんにちは。

お忙しい中、早速のメールを頂き、ありがとうございました。

チーム長がご心配されている「その警察官・機動隊員又は韓国政府が小松昭夫氏の活動を支援又は擁護すると誤解を招く恐れがある」ことは良くわかりました。

今、お使いとして考えている映像を研究所ホームページにアップしておりますので、ご確

認をお願いします。

<https://www.youtube.com/watch?v=kTnh9vJb5Lc&feature=youtu.be>

機動隊員の写真は14分13秒くらいに登場します。

確認の上、ご連絡をお願い申し上げます。

ありがとうございました。

(株)小松コリア 尹熙竣

2015年6月4日(木)

16:00

お昼が過ぎても連絡がなく、尹から32機動部隊に連絡を入れました。

すると、李・ソボウ巡視が電話に出られ、昨日の映像を送ってから連絡を待っていることをお伝えたところ、

「昨日の夜、金チーム長とその映像を拝見しました。小松さんの活動映像の並びの中で、最後のほんの一部のところに登場したので、特に問題ないと思いました」

「しかし、昨日メールにも書きましたが、①その映像を使って、警察官・機動隊員又は韓国政府が小松昭夫氏の活動を支援又は擁護すると誤解を招くような発言・行為はやめてください。②慰安婦・少女像、警備隊の名誉を害するところには使わないでください」

「機動隊員の写真がでる14分13秒くらいからの映像の下に、“警察官・機動隊員が小松昭夫氏の活動を支援又は擁護していることではありません”と文字を入れてください」

「最後に、写真の以下の部分を取り除き、お使いください」



＜今回のやり取りで感じたこと＞

- ①小松電機、研究所の活動のあゆみ映像が、全体の流れを変えることができた
- ②単なる報告やお伝えではなく、使用許可（目的）を取るためにはどの視点、順序、分析が必要なのかを明確にして接近すること
- ③三方よしの視点がもっとも大事
- ④自分の考えでこれはできる・できないを判断する前に、まず相手に聞いてみることに

小松社長は、この「活動のあゆみ」をソウル記念事業市民委員会又はソウル副市長・市長までもまず見てもらいたいと考えていますが、

その入り口として、今回のソウル記念事業市民委員会の「委嘱状」に書かれている①「光復の意味を広く知らせるため、知恵を出し合ってください」との整合性を考察した文書化、②映像の韓国語バージョンの制作、と共に提案の準備を進めるべきではないかと考えました。

※小松コリアは展示会後のフォーロの関係もありますので、何とか本社側で「活動あゆみ」韓国語バージョンの制作をお願いします。（堀江・金ユジンさん、ご協力をお願いします）

同じことを観ても、それぞれの立場や経験、これからの目標・目的によって違っていくと教わりました。

文書の最後として、小松社長に一つ質問したいことがあります。映像の13分43秒から周藤彌兵衛⇒慰安婦少女像⇒武器をすてよ！⇒ズットナー像の順番で映像が流れますが、それが持つ「意味と狙い」は何処にありますでしょうか。

「共感の場をつくり、対立を呼び込み、輪の文化創造へ」と書かれていますが、歴史から生まれた怨念、そして現在・未来に想定される対立のエネルギーを資源としてどのように捉えるかは、良い経営素材だと思いますので、わかりやすくご指導をよろしく申し上げます。

以上

光復70周年 記念作業 市民委員会 会議

2015年7月24日

21名参加そのうち小松社長が唯一の日本人として参加

場所 ソウル市中区 ソウル市役所8階

進行 李マンウォル スンミョン女子大学名誉教授

三回に及ぶ市民委員会は、来月の行事開始を前に、市が発注した行事全体の芸術監督より、8月の各事業の報告を受け、承認する内容だった。

この中で、05年に会社研究所として訪問団を組み、献花をした西大門がクローズアップされた。西大門刑務所では新たに、独立運動家数十名を刻んだ石碑をつくり、一部リニューアルし、光復70年事業の中心的な建物として事業推進にあたることになった。

小松理事長は、司会の李マンウォル名誉教授の紹介を受け、「活動のあゆみ」5分の映像を全員で見たあと、挨拶した。

李名誉教授

小松理事長は「竹島の日」を制定した島根県出身であり、HNS人間自然科学研究所の理事長を務めています。日本人として初めて、独立記念館に寄付し、日本人として、安重根義士記念館の推薦でこの委員会に参加して頂いています。

安重根義士の東洋平和論について、島根県で講演会を開催されたこともございます。この委員会の参加は三回目で、飛行機に乗ってこの日のためにいらっしゃった。こうやって、北東アジア、私達ソウル市民、それから韓日関係に役割を果たし、努力していただきたい。拍手で迎えましょう。





(動画上映)

小松理事長

唯一の日本人として招待してくださり、私の活動を推進してくださり、ありがとうございます。

第三回委員会配布の会議資料の一部翻訳

全体に三部構成

- ①これまでの経過報告
 - ②光復節に合わせて西大門で行われる民主独立行事
 - ③光復70周年 メイン行事
- で、構成

2015年7月24日

光復790周年記念作業 市民委員会 会議資料

私の光復

光復70周年 ソウル市 記念作業 推進団

4P

記念作業 推進経過及び 市民委員会 第二回の提案内容検討報告

11P

西大門刑務所 歴史館 追慕碑

1998年開館当時に設置された追慕碑

・(過去の追慕碑は)別に設けられた追慕空間がなく、観覧導線上に位置しており、敬虔な追慕の雰囲気をつくるため

(小泉元首相の献花の様子)

・2010年は新たに市民公募を通して設置された追慕碑—民族の魂の器—
新たに献花台などを設け、75名の独立運動家の名前を刻んだ。総勢で165名の運動家の名前が記されている。

12P

2015年 西大門 独立民主祭 計画

2015年 8月14日—15日 祝いの週間 8月8日—15日

場所 西大門刑務所歴史館、西大門独立公園

行事内容 2014年 独立民主人士 プップリンディンに関する資料の展示

13P

開幕式 8月14日

場所 西大門刑務所 メイン舞台

歴史コンサート 8月15日 光復70年 また開放を呼ぶ

市民参加の歴史循環曲 アリランラブソディ— 8月15日

光復70周年記念 大韓民国を描く

など

15P

子どもたちの民主教室

小学生 30名

青少年歴史教室

歴史に関心がある中高生 35名

メイン行事

メインタイトル

私の光復

光復を思い起こせ

- ・キム・ヨナなど有名人によるビデオコメント



・ソウル広場へ、未来を施工する青いゲートを作り、夕方には市民のための舞台になる

「私の光復」をテーマに、青少年討論会、公演、映画などが上映される。

7月3日～8月13日

・国税庁の別館撤去 “文化広場”

日本時代に作られた国税庁南大門別館を撤去し、市民広場にする。

- ・「私の市役所」ソウル図書館外壁展示

光復70年を記念して、旧ソウル市役所（現在のソウル図書館）を新たな外壁に帰る

8月5日～30日

日本時代には京城部庁舎、光復後はソウル市役所だった現図書館の外壁に、「私の光復」をテーマにしたメッセージを浮かび上がらせる

（仮設で、大門を、旧市役所前につくる）

- ・光復70周年特別展 24時間

1945年8月15日は韓国にとってどうだったのか？中国では？日本では。3つの国のその日の24時刊を展示する。

8月11日～30日 開幕式11日6時

場所 ソウル市民庁舎ギャラリー

- ・ソウル歴史博物館企画展 「南山の力」

8月15日～11月1日

- ・女性独立運動家展示 「戻ってきた名前たち」

8月1日から8月23日 オープニング8月1日午後4時。

場所 西大門刑務所歴史館

・C47機 展示物設置「70年にわたる飛行」

金九、張ジュンハなどが中国大陸から独立運動を行い、ソウルにもどった飛行機 C47 を再現。

日時 8月18日から2018年6月16日

場所 ヨイド公園

・ソウル市立交響楽団による演奏

8月15日午後7時30分～9時 8月16日午後7時30分～9時

場所 ヨンサン家族公園特設舞台

・人の道

韓国近現代史の人権現場を発掘して、現況を調査する。

KCIA、西大門刑務所、南宮洞など、(韓国現代史における民主化運動弾圧の舞台になった)のツアーを組み、テーマ別、年代別など、多様なコースを準備する。

日時 8月12日から12月10日

場所ソウル市内人権現場 100箇所

・「この人をさがしている」

西大門刑務所で「ばんざい」を叫んだ方々の写真があり、その写真の名前を探している。

8月15日から14日 15日から一定期間

・海外独立運動家の子孫を招待

・東アジア国際平和会議

2015年8月13日10時～17時30分

2015年8月14日10:00～13時

場所 大韓商工会議所 国際会議場

会議主題

①韓国戦争を止めろ！ 韓半島平和体制構築に向けて

②日本の平和憲法を守護と、東アジア平和連帯の形成

③核のないアジアと世界

主催 東アジア国際平和会議

・統監部登山案内板設置

南山の北側にあった韓国統監跡をみる

8月29日～12月末

- ・独立運動家標識設置
- ・光復70周年記念作業 記録及びwebアーカイブ

- ・白凡金九パンソリ（浪曲）

日時 8月14日午後6時から

場所 ウンピョン文化芸術館

- ・5つのムクゲ

尹奉吉、金九、イ・ボンチャン、安重根、ペクジョンギの独立運動家5人の名前で、ヒョジョン公園にムクゲを上で標識を作る

- ・一緒につくる市民太極旗

8月7日～8月8日

場所 ソウル広場

- ・慰安婦のおばあさんと一緒にする、コンサート

8月12日4時30分～6時

ソウル市役所新庁舎8階多目的ホール

- ・日本軍慰安婦被害者 平和造形物建立

日時 2015年12月まで

場所 歴史的象徴性がある場所

内容 日本慰安婦被害者を記憶し、平和意識を鼓舞する象徴物を建立

推進方法 ソウル市、民間団体、市民参与

- ・青年グローバルソウル広報大使

- ・光復70周年 独立記念造形空間 建立

8月15日

日帝、分断、韓国戦争等悲劇の歴史を、母性と女性性を通した癒やしと和合を意味する

1000万市民 統一念願光復70周年独立記念造形空間 建立

- ・光復70周年記念展 北朝鮮プロジェクト展

2015年7月 韓国光復70周年 記念作業 会議

7月21日－9月29日

場所 ソウル市立美術館

・光復70周年、ソウル歴史学習大会

日時9月11日13時から18時

・太極旗特別写真展



シンポジウム・イベント写真集／書籍紹介

※タブレット・スマートフォン・PCでご覧いただいている場合は、画像をタップすると各試料のPDFデータをダウンロードしてご覧頂けます。

No.1
2013年8月



【オランダ・ハーグ】
平和宮建立100周年記念事業
フィランソロビー20人パネル展示他

No.2
2014年6月



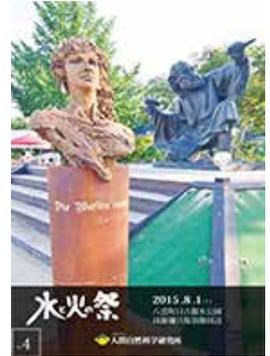
【オーストリア・ウィーン】
ズットナー女史没後100周年記念事業
ズットナー2号像貸し出しセレモニー

No.3
2014年11月



【松江・くにびきメッセ】
出雲から陽が昇るシンポジウム

No.4
2014年8月



【松江市八雲町・親水公園】
第1回 水と火の祭

No.5
2015年11月



【松江市・小松電機産業内太陽ホール】
出雲から陽が昇るシンポジウム

No.6
2016年4月



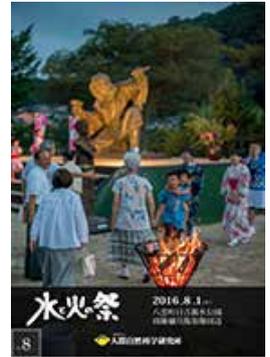
【松江市八雲町・熊野大社】
出雲國神仏霊場合同祭事
世界平和祈願祭

No.7
2014年6月



【松江市 宍道湖シジミ館】
幻影舞台朗読劇 公開稽古

No.8
2016年8月



【松江市八雲町・親水公園】
第2回 水と火の祭

No.9
2016年11月



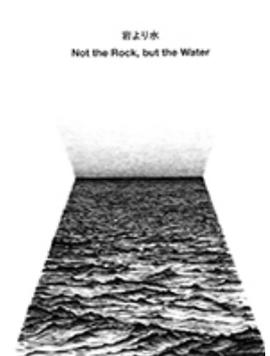
【松江市・小松電機産業内太陽ホール】
悠久の河シンポジウム

夢を信じない人は
現実主義者ではない



2014.11.23 シンポジウム
イングリッド・ロレマさん制作

岩より水
Not the Rock, but the Water



2016.01
イングリッド・ロレマさん制作

写真資料アーカイブスでご覧いただけます。

<http://www.komatsuelec.co.jp/arc/arc-photoobook.html>

未来を拓く原点

今から 300 年前、周藤彌兵衛翁（1651～1752 出雲国日吉村：現・島根県松江市八雲町）は、剣山の硬い安山岩を火で温め、ノミと槌で切り崩し、洪水を繰り返す意宇川の流れを変え、村人を救いました。56 歳から 97 歳まで 42 年をかけて剣山切通しを完成、102 歳で大往生されました。

周藤翁の生涯を描いた小説『悠久の河』を日本水道新聞に 2014 年 7 月から連載し、日英韓中露の 5 か国語で出版するとともに、日中国交正常化 40 周年を記念して、中国山東省で翁の大銅像を制作、八雲町に建立します。

物語の舞台である意宇川流域には、宮内庁直轄の古墳、火の発祥の神社・熊野大社、国宝・神魂（かもす）神社、縁結びで有名な八重垣神社など、古い文明の痕跡が至る所に遺されています。

また、高度経済成長期の 1960 年代には、剣山に連なる要害山をダイナマイトで崩し、島根原子力発電所建設用の砕石が作られました。「悠久の河」の生まれたこの地域を「和の文化」創造の原点ととらえ、情報通信技術（ICT）を用いて世界的なストーリーを描くことにより、その実現に向け急速な動きが始まることを確信しています。

周藤彌兵衛翁銅像

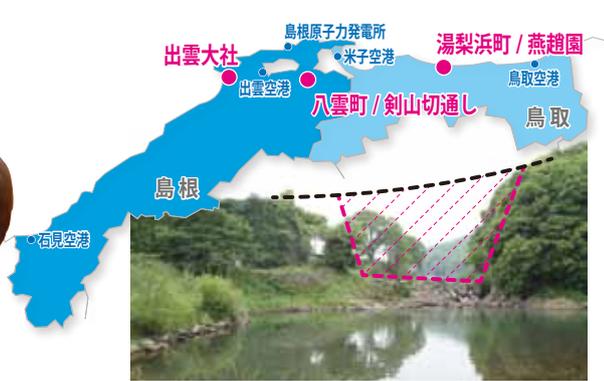
1994 年、人間自然科学研究所を設立、「一村一志」運動を始め、郷土の水の偉人の小説・児童文学・漫画の出版、シンポジウム開催、テーマ曲制作、合唱コンクールなどが行われてきました。

2002 年、日中国交正常化 30 周年記念事業として、中国山東省棗荘市で孔子、孟子、周藤、清原の 4 体の銅像を制作しました。棗荘市台兎荘は、第 2 次世界大戦中、米国から兵器を提供された国民党と共産党の国共合作で、松江歩兵第 63 連隊（島根・鳥取）が大打撃を受けた地です。

この地で再び周藤翁の大銅像を制作、本年 6 月に完成し、日本の水循環基本法成立後初の「水の日」8 月 1 日に、島根県松江市八雲町に建立します。

銅像設置にあわせ、伝統工芸の陶器、漆器（八雲塗）、織物等と新素材を組み合わせ、発達障がい児と共同制作、新産業創造を計画しています。

松江市八雲町の「めだか論語普及会」から始まった論語の素読会は、現在、島根・鳥取で 20 か所を超えています。この会と「周藤彌兵衛顕彰会」が協力、巨大銅像建立と関連事業の計画が進んでいます。



剣山切通し（松江市八雲町）
----- 剣山の最初の形 ----- 削岩範囲



2014 年中国・ハルビン 安重根義士記念館

ベルタ・フォン・ズットナー彫刻

ベルタ・フォン・ズットナー（1843～1914）は、第 1 次世界大戦前の 1889 年、ベストセラー小説『武器を捨てよ！』を発表。1891 年、アルフレッド・ノーベルの支援により、オーストリア平和協会を設立、国際的な平和活動を展開。1905 年、女性初のノーベル平和賞を受賞しました。

米国のアンドリュース・カーネギーの寄付によりオランダ・ハーグ市に建設された「平和宮」（国際司法裁判所）100 周年を記念して、2013 年、彫刻家イングリッド・ロレマさん制作のズットナー胸像が同市に建立されました。このたび、ロレマさんにより 2 号像が制作され、没後 100 年の 2014 年 6 月から半年間、ウィーンの平和記念館（ズットナーが亡くなった場所）で展示され、その後、日本に移される予定です。

世界各地に、この彫刻が次々に建立され、ズットナーの志が蘇り、平和活動の資金が生まれ、確かな平和への流れが始まることを願っています。



2013 年オランダ・ハーグ イングリッド・ロレマさんと小松理事長

「国際平和センター」 構想

かつて沖縄は、「出会えば兄弟」という言葉が示すように「平和の島」でした。400年前の薩摩藩侵攻、明治政府による琉球処分、また太平洋戦争末期沖縄戦の約20万人犠牲に至り、「被害の島」になりました。第2次世界大戦後は、朝鮮半島、ベトナム、イラク、アフガンへの米軍前線基地として「加害の島」という側面も持つようになりました。

この島に人類の未来を拓く誓いの施設として「国際平和センター」を創設し、「世界恒久平和発祥の島」とする構想です。

「国際平和センター」は、次の3つの主要施設により構成されます。

(1) 世界戦争平和映像センター

情報通信技術（ICT）で世界の戦争・平和博物館のネットワーク網を構築。各施設の写真と映像を総合的に学ぶことができ、世界の戦争・平和博物館への案内役を務めます。

(2) メモリアルタワー

世界中から近代の戦争の全戦没者電子データを集め、永遠に記録、閲覧できるメモリアルタワーを建設。

(3) 和の殿堂

最先端の科学技術とICTを生かし、「和の文化」を生み出す殿堂を建設。平和会議、平和貢献者への顕彰、「知のオリンピック」などを開催。



韓国

- ① 1997年 独立記念館
- ② 2005年 安重根義士記念館
- ③ 2005年 西大門刑務所歴史館

中国

- ④ 2001年 抗日戦争記念館
- ⑤ 2014年 抗日戦争記念館
- ⑥ 2005年 南京大虐殺記念館



2009年ロシア
 ⑦ ハバロフスク 第2次世界大戦慰霊碑
 ⑧ ハバロフスク 平和慰霊公園
 ⑨ ウラジオストク 戦争体験者との意見交換会



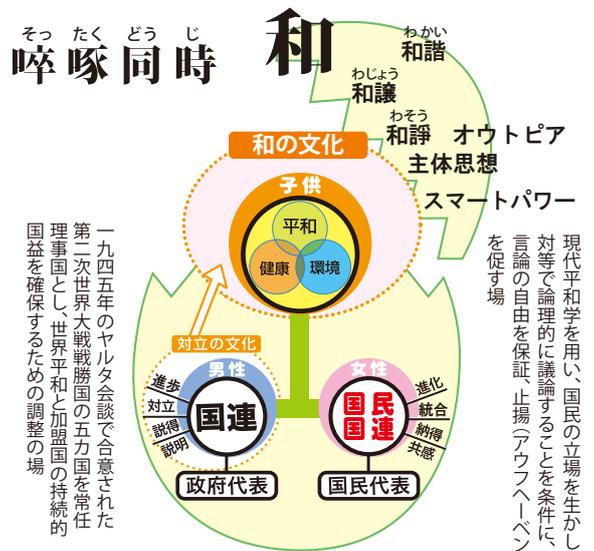
2005年アメリカ・ハワイ
 ⑩⑪ アリゾナ記念館
 ⑫ ミズーリ号艦上

「国民国連」 構想

人間自然科学研究所は、2008年12月、中日韓英4か国対訳の『中国古典名言録』の出版に合わせ、北京で「国民国連」の試案を発表しました。

現在の国連は193カ国の「政府代表」で構成され、常任理事国を含む大国主導で運営されています。「国民国連」は、歴史的経緯を生かし、論理的討議を通じて、よりよく生きられるストーリーを生み出す、「国民代表」で構成される集団です。

中国の「和諧」、出雲で生まれた「和譲」、韓国の「和諍」「オウトピア」、米国の「スマートパワー」、朝鮮の「主体思想」などを、教養・芸術・ユーモアで組み合わせ、「和の文化」が生まれる「場」が「国民国連」です。



【和諧】2004年に中国が発表した「各階層間で調和の取れた社会を目指す」というスローガン

【和譲】スマートパワーの発表を受け、聖徳太子の「和をもって貴しとなす」と、二宮尊徳翁の「推譲」を組み合わせた出雲大社教の千家達彦管長の言葉に管長の了解を得、新たな意味づけを行った。

3つのソフトパワー（感情を加味した知恵、使命、会話力）と、2つのハードパワー（集団組織力、道理を実現するための方便）を「全体の文脈の中で統合することから生まれる力」

【スマートパワー】米国のオバマ政権が採用している概念で、3つのソフトパワー（感情を加味した知能、ビジョン、対話力）と、2つのハードパワー（組織力、権謀術数）を「全体の文脈を踏まえて融合する力」

一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットフォーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

島根原発はこうして始まった。

市民ひとりひとりが核発電について 考えるための入門書・資料に最適

「平成23年3月11日は、日本人にとって忘れることの出来ない日となった。宮城県牡鹿半島の東南東沖130キロ、仙台市東方沖70キロの太平洋海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生した。日本周辺における観測史上最大の地震である。地震とそれに伴う津波、およびその後の余震によって引き起こされた大規模地震災害と、地震による福島第一原子力発電所事故が起こった。かつて、私は

鳥根県厚生部業務課環境衛生課の公害係長として島根原子力発電所を担当したことがあり、遠い東北での災害ではあるものの、まるで我がごとのように思えた。」
本書執筆への著者の想いが、「はじめに」にこう記されている。

世界を震撼させた福島原発事故からまもなく5年。鹿児島県に再稼働に向けた準備が加速している。



島根原発と松江市の街並み

《本のご案内》

島根 核 発電所 原発 その光と影

山本 謙 著
古浦義己 編
企画：一般財団法人人間自然科学研究所
発行：三和書籍
A4判378頁
定価：4500円＋税

著者略歴：1929年、鳥根県松江市（旧東出雲町）生まれ。1946年、松江農林学校卒業後、鳥根県職員となる。経済部、土木部、総務部を経て、厚生部業務課環境衛生課公害係長、環境保健部公害課主幹及び課長補佐として、一貫して島根原子力発電所の立地と放射能対策等に関する業務を担当。以後、企画部、商工労働部、鳥根県人事委員会事務局局長を務め、1986年退職。現在、山本行政書士事務所長。

「設計上想定していない事態が起こり、安全設計の評価上想定された手段では適切な炉心の冷却又は反応度の制御ができないう状態になり、炉心溶融、又は原子炉格納容器、破損に至る事象。」
このように規定されている「レベル7」の、あの福島原発の「過酷事故」から、この国と電力会社は、ほんとうに学んだのか？ 科学の限界に謙虚に向き合う、気の遠くなるような年月、地球環境を汚染し続け、人類の未来を脅かす未熟な技術について深刻に反省したのか？ わずか5年足らずで、すでに風化が始まっているのではないのか？
こんな想いがつづる昨今、「10キロ圏内に県庁所在地（人口密集地）のある」世界でも例のない島根原発の生い立ちから今日に至る経過を記録した本書は、「原点」に帰って原発問題を考えるときの格好の入門書である。
著者は昭和21年（1946年）から昭和61年（1986年）までの40年間、島根県庁に勤め、その間、島根原発の立地と放射能対策等に関する業務を担当した経験のある、原発推進の内部事情に通じた「生き字引」である。
実務家だけに、議会の議事録、安全協定の文書、町誌や新聞記事、ピラなどの貴重な記録を手堅

く、ある意味では坦々と紡いでいる。それだけに、当事者だけが経験し、知ることでできる「インサイド情報」が短く書き込まれた箇所が光る。
（島根原発1号機）の試験運転開始後において、振動計の故障や核燃料棒の欠陥などが相次ぎ起こったが、中国電力（株）からは何も県には連絡されなかった。マスコミは、相次ぐ事故騒ぎで「安全協定効果なし」等と連日大きく報道されるので、担当者としては席にいづらく、既に営業運転をしている先進県である、福井県・茨城県に出向き担当課長と相談することにした。
その反応は、安全協定の改訂は、全国にもいまだかつて例がない、国と電力会社は結束が堅い、交渉相手の貴方が首になるか更迭されますよ、考えて行動しなさい。…との答えであった。
「こうして改訂交渉を始めることになったが、これからはが大変であった。（中略）このこと、某新聞の県政記者から、近いうちに知事と県政記者との懇談会がある、君の問題を取上げて『首にしてやる』と言われた。」
原発推進で既得権益のある政治家、企業、官僚、研究者、そしてマスコミからなる、いわゆる「原子力村」の底冷えのするような実態の片鱗が、さりげなく描かれています。
ちなみに本書には、「資料」として、「原発のないふるさと」と題された「鳥取県高松郡連合婦人会講演記録・資料」も取られていて、鳥取県青谷町の原発建設計画を、精力的な学習活動と膨大な反対署名で中止に追い込んだ、地元婦人会の活動の記録である。3号機を誘致した島根原発の地元の実情、経緯と照らし合わせて読めば、多くの示唆を得られる。
（交易場修）

明治は日本のあらゆる面で一大転換の時代であった。殖産興業、富国強兵を旗印に、経済、産業、軍隊機構が整備強化された。そのために新政府は新国家建設を牽引できる外国人技術者や教育者を雇い、国力の高揚に邁進した。彼らはインフラのあらゆる分野で技術力や指導力を発揮して、日本の近代化に大きく貢献した。本書はそのような時代を跋扈したお雇い外国人技術者の、島根県内での活動を紹介したものである。
はじめに、その時代に山陰地方を歩いて来県した二人の外国人の紀行文、旅行情報を紹介している。L・ハーン、および彼らに13年も先だつて島根を訪れたP・ケンパーマンである。次の章では6人のお雇い外国人技術者の物語を紹介した。ゼームス・ワットソンはたたら製鉄を訪問し、海軍納入の鉄材供給を探した。地質学者のB・S・ライマンは安来出身の安達仁造を伴って、たたらや銀山の調査を行った。P・サルダは鉱山技術者、建築家で、大森鉱山と雇用契約を結んだ。冶金技術者のW・ガウランドは日本の通貨統一に貢献したが、県内の古墳調査のために来県している。日本の治水事業を指導したデ・レーケは境港の修築工事で島根県技師と接

島根県内において、「お雇い」といえば、明治23年に教育者として来県した、L・ハーンと結びつく方も多いでしょう。中央で著名なお雇い外国人技術者が、明治の時代に県内を訪れ、たたら製鉄や銀山のインフラ建設の分野で、関わりを持っていたことを見出し、驚くとともに、喜びました。（はじめにより）

島根とお雇い外国人技術者たち
— 島根の近代化産業遺産物語 —
岡崎秀紀 著
変型A5判342頁

「ゆう科学通信」は皆様からの
ご意見、情報を礎に発信して
いきます。
ご投稿はメール、ファクスで
お願いいたします。



（足立正智・島根県建築士会会長）

人類の戦争を終わらせ、恒久平和を創る使命を持った日本

——そのさきがけは出雲！——

核大国の結節点にある
朝鮮半島と日本列島

新しい「和の文化」研究会を立ち上げよう!

日本生まれ、中国で始まった
「和の文化」の理念と実践の研究
今、ここからすぐ始めよう!

1945年のヤルタ会議で合意
された第二次世界大戦勝国の
五カ国を常任理事国とし、
世界平和と加盟国の持続的
国益を確保するための調整の場

現代平和学を用い、各国の国民の
立場を生かし、対等で論理的に議
論することを条件に、共感の場を
つくり、対立・統合・発展を繰り返す
新しい「和の文化」を生み出す場

2015年12月、
北京で「和の文化研究会」設立
に関する提案書」発表

国民国連構想
2008年9月、北京で発表

志人のネットワークで
「和の文化」を世界に広めよう

ヨーロッパで私たちが一緒に...

オランダではロレマさんが
オーストリアではイップさんが
中国でも...
ロシアでも...
アメリカでも...

核保有国
— アメリカ合衆国
— 大
核国
— ロシア
— 中国
— イギリス
— フランス
— インド
— パキスタン
— 北朝鮮
— イスラエル

※準核保有国
(核燃料と技術を持ち、核
兵器開発が可能な国)
日本、韓国、台湾、ミヤ
ンマー、イラン、シリア、
トルコ、ドイツ、イタリ
ア、オランダ、ベルギー、
ギリシャ、スイス、ス
ウェーデン、カナダ、ブ
ラジル、アルゼンチン

企画：小松昭夫
制作：寺戸良信

イングリッド・ロレマ
オランダ芸術家・スツナー像作者

イップ常子
オーストリア公認国家ガイド

核大国の結節点にある 朝鮮半島と日本列島

核保有を宣言した国で、核を放棄した国はありません。日本、韓国が米国「核の傘」の中にある以上、北朝鮮が世界で初めて核を放棄するには、日本・韓国とともに人類の歴史に対して責任を果たすという、シナリオが必要です。

どこの国もそうですが、核大国である中国、露国、米国も、国内に大きな問題を抱えています。国内の対立が臨界点を超えれば、核は最も危険な存在になります。この可能性を回避するためにも、朝鮮半島と日本列島の非核化は、核大国、保有国に、比類なき影響を与え、紛争地帯に希望と勇気を提供できるはず。これをもとに平和構築のノウハウを確立することができれば、環日本海圏は、世界から最も期待される地域になるはずです。これこそが戦後、繁栄を享受してきた日本と韓国の果たすべき役割ではないでしょうか。.....

小松昭夫 一般財団法人人間自然科学研究所理事長
小松電機産業株式会社 代表取締役

詳しくは書籍『朝鮮半島と日本列島の使命—3大核大国の結節点から和の時代が始まる』人間自然科学研究所 発行(2011年2月22日第1版第1刷・2014年11月23日第4版第1刷・増刷計5回)を参照ください。
次のURL、またはQRコードで、電子書籍データがダウンロードできます。
URL : <http://www.hns.gr.jp/books/chousenhanntouto.html>



Korean Peninsula and Japanese Archipelago Where Nuclear Powers Meet

The Korean Peninsula and the Japanese Archipelago are just located where the three nuclear big powers, the U.S., Russia and China meet. We do not know any country which has abolished nuclear weapons after declaring that it succeeded in obtaining such weapons. As long as Japan and ROK are protected by the American nuclear umbrella, we really have to prepare a special scenario for DPRK to abandon their deadly weapons. It should be a scenario to illustrate a clear road for us, Japan, ROK and DPRK, to admit and take full responsibilities for the history of man.

The three nuclear big powers, China, Russia and America, have a lot of domestic problems like all the other countries in the world. If any of such problems should go beyond the critical point, the nuclear weapons they hold would be most dangerous things. Making the Korean Peninsula and the Japanese Archipelago a nuclear-free zone should provide all the nuclear powers, whether they are big or small, and all the disputing areas of the world with an incomparable example of hope and encouragement. This would also provide us a chance to develop and establish sure ways to build peace in the whole area of Japan Sea/East Sea. Then the other countries in the world would surely like follow our suit. I believe that this should be the No.1 project for Japan and ROK to cope with who have been enjoying thriving economy after the World War II.

(A partial quotation from The Shimane Daily Newspaper, Feb.12, 2009)

Akio Komatsu President Komatsu Electric Industries Co., Ltd.
Human, Nature & Science institute Foundation



WA-JO

IZUMO

The radiant beauty of the world
Compels my inmost soul to free God-given powers of my nature
That they may soar into the cosmos,
To take wing from my Self And trustingly to seek myself
In cosmic light and cosmic warmth.

和讓